

7. 障がい者(児)基礎調査(施設入所者用) 調査結果

(1) 調査対象者の属性

① 居住地

図表 問1(1) 居住区(SA)

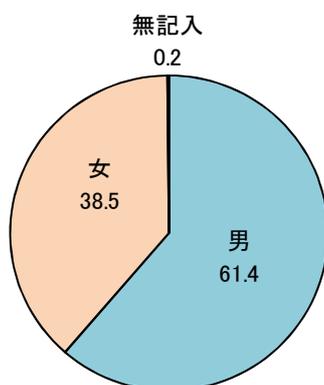
(N=1149)

北区	都島区	福島区	此花区	中央区	西区	港区	大正区	天王寺区	浪速区	西淀川区	淀川区	東淀川区	東成区	生野区	旭区	城東区	鶴見区	阿倍野区	住之江区	住吉区	東住吉区	平野区	西成区	無記入
3.1	2.3	1.4	2.5	2.2	1.7	2.9	2.9	2.4	1.6	3.7	4.6	5.7	2.5	6.5	3.1	6.4	3.5	3.2	6.1	5.6	5.6	8.9	6.3	5.4

② 性別

図表 問1(2) 性別(SA)

(N=1149)

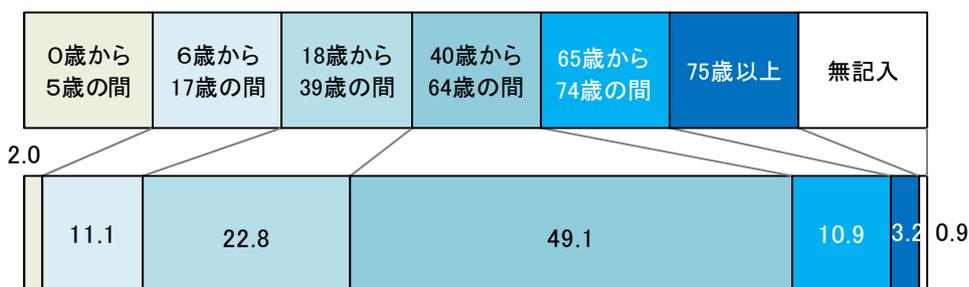


注) 数値は回収数を 100 とした%

③ 年齢

図表 問1(3) 年齢(SA)

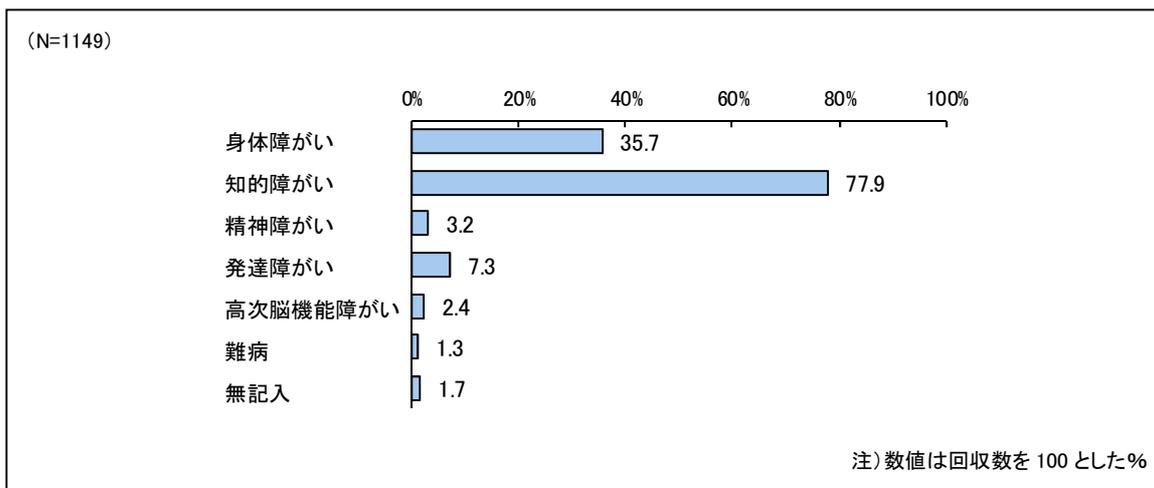
(N=1149)



注) 数値は回収数を 100 とした%

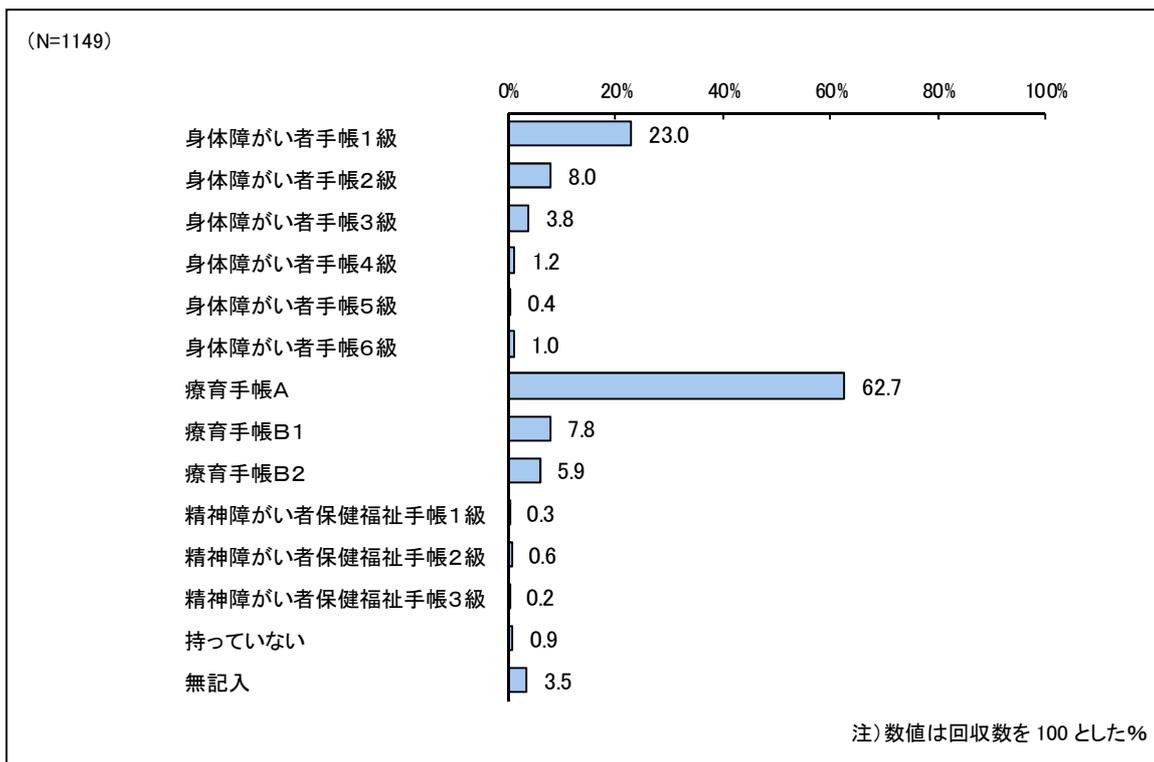
④ 障がいの種類

図表 問1(4) 障がいの種類(MA)



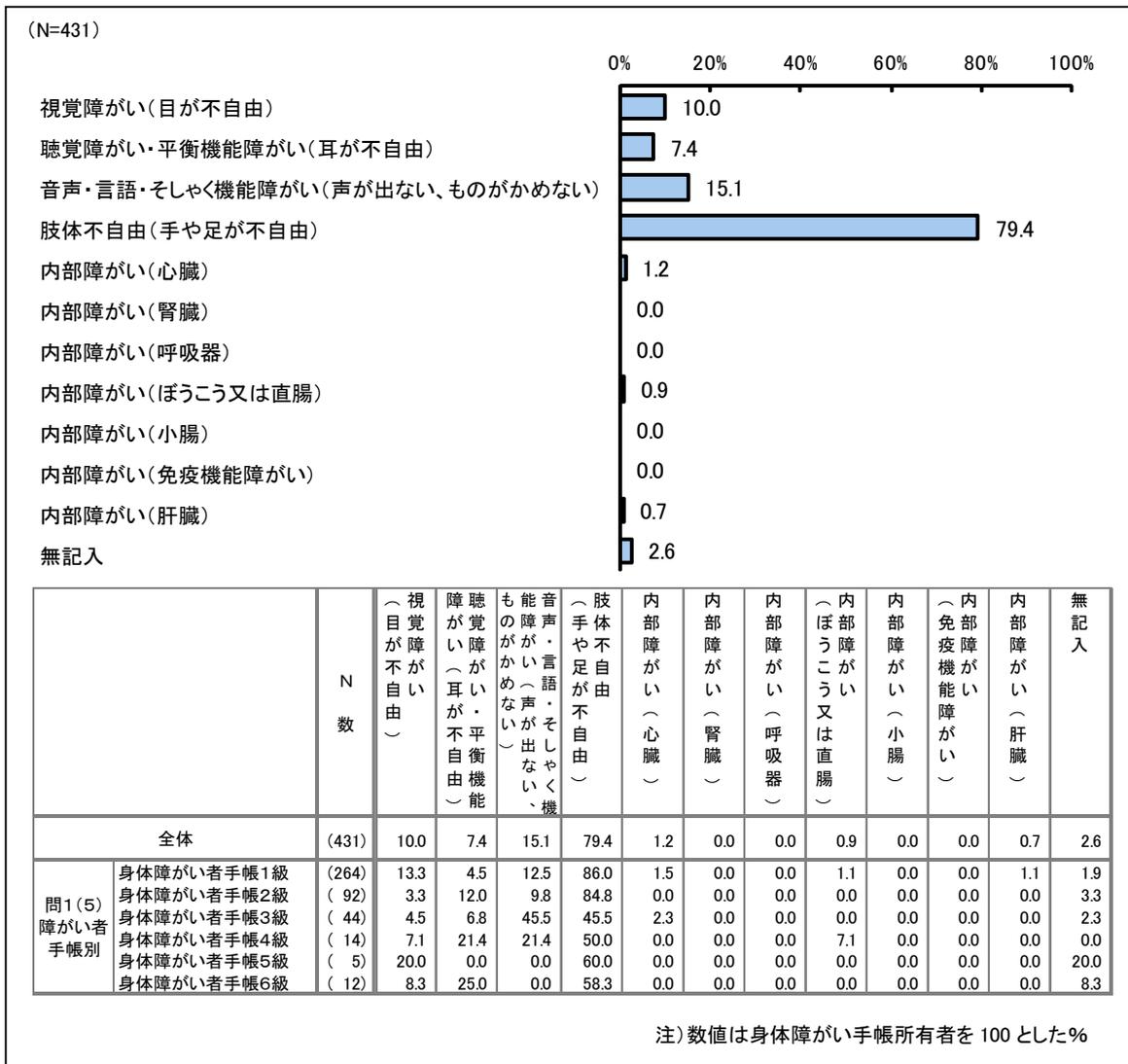
⑤ 障がい者手帳の種類・等級

図表 問1(5) 障がい者手帳の種類・等級(MA)



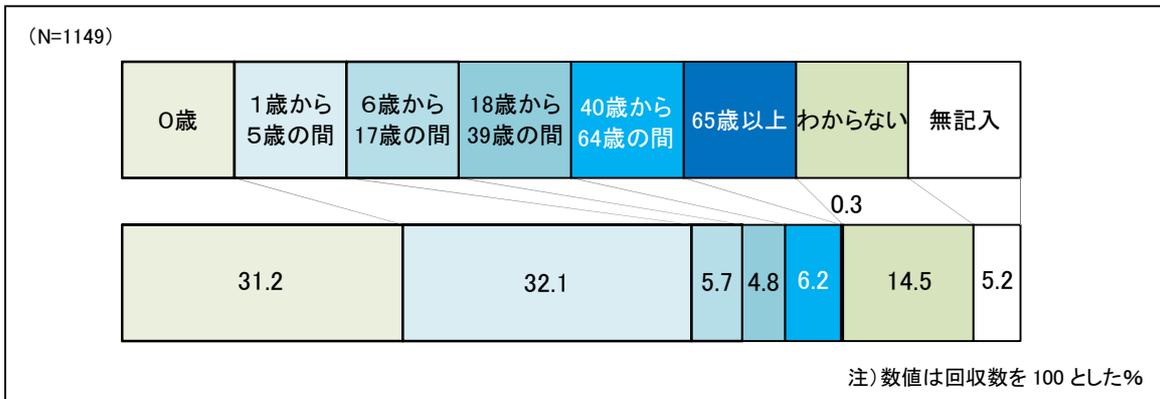
⑥ 障がいの種類(部位)

図表 問1(6) 障がいの種類(部位)(MA)



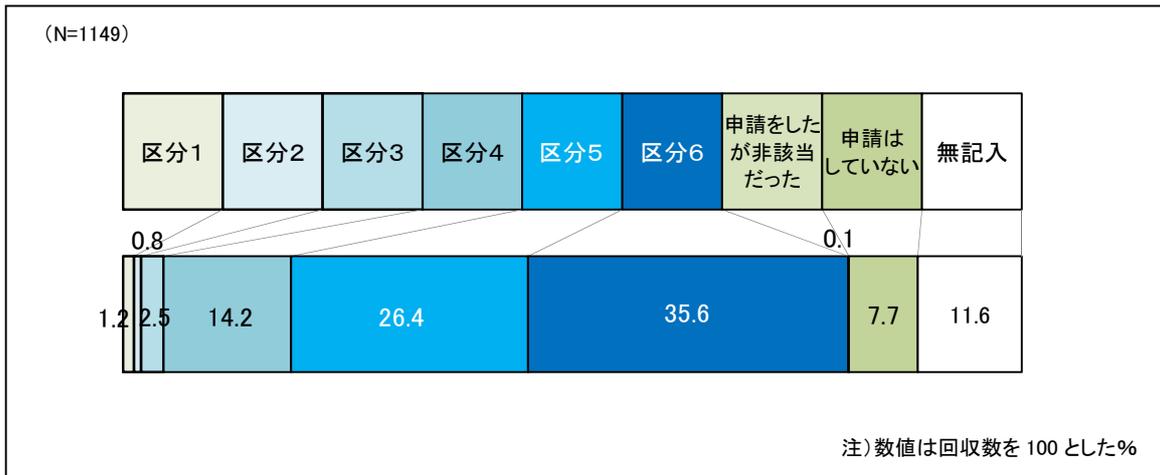
⑦ 障がいが発生した時期

図表 問1(7) 障がいが発生した時期(SA)



⑧ 障がい程度区分

図表 問1(8) 障がい程度区分(SA)

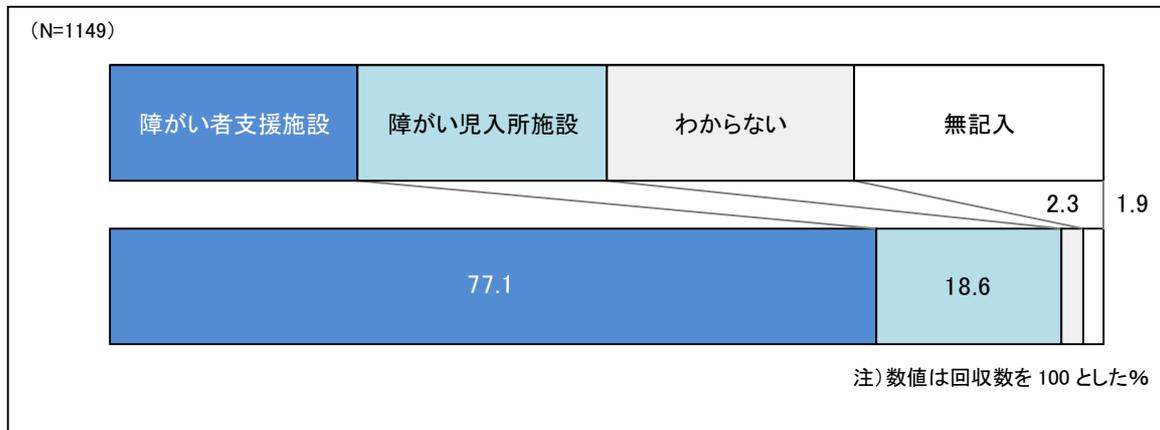


(2) 施設とくらしのことについて

① 入所施設の種類

約 3/4 が「障がい者支援施設」に入所している。

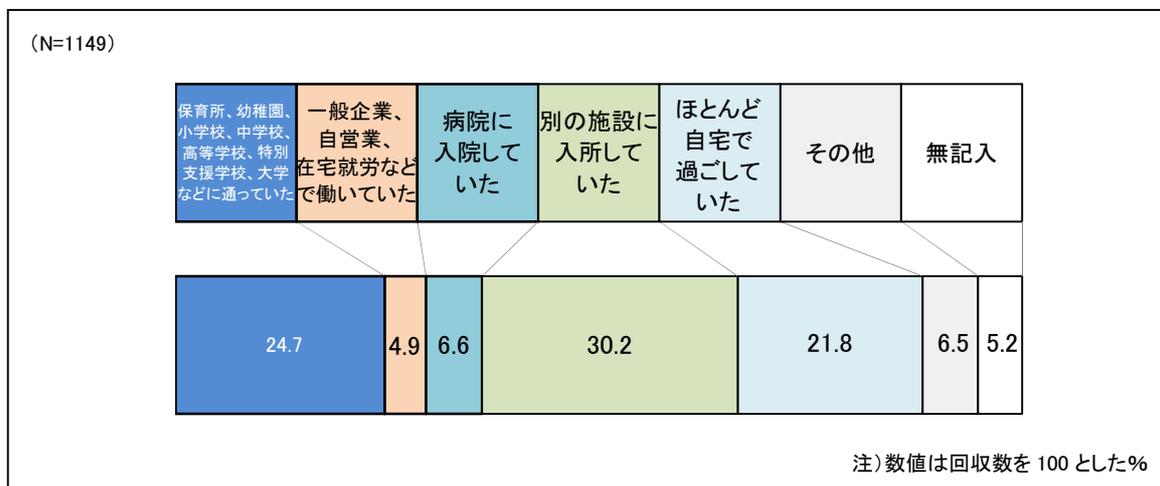
図表 問 2(1) 入所施設の種類(SA)



② 入所前の経歴

「別の施設に入所していた」(30.2%)、「病院に入院していた」(6.6%)など他施設にいた場合が、全体の 1/3 強を占める。学校卒業後に入所した場合も 24.7%。

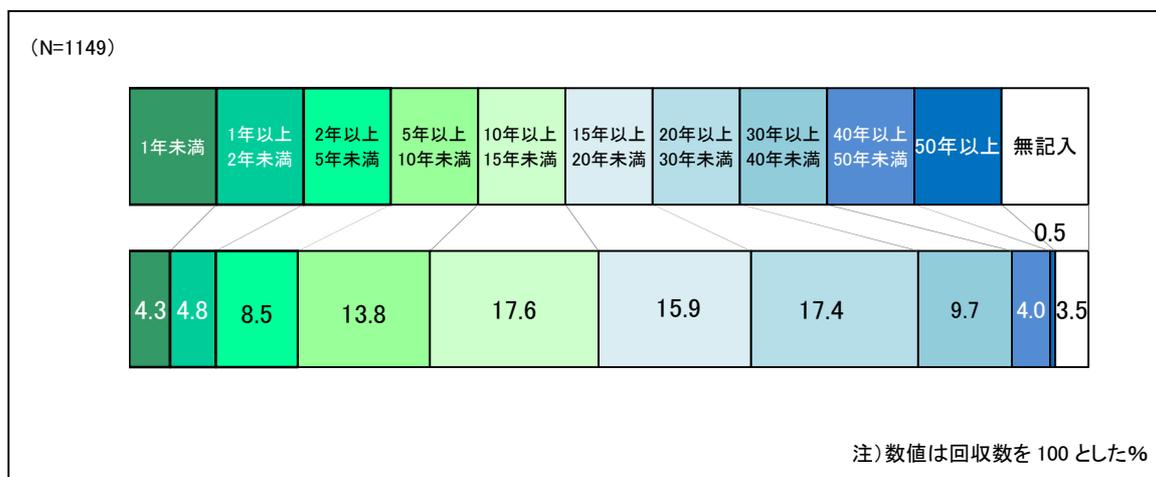
図表 問 2(2) 入所前の経歴(SA)



③ 入所期間

全体の 2/3 以上が「10 年以上」の入所者であり、そのうちの約半数が「20 年以上」の入所者である。

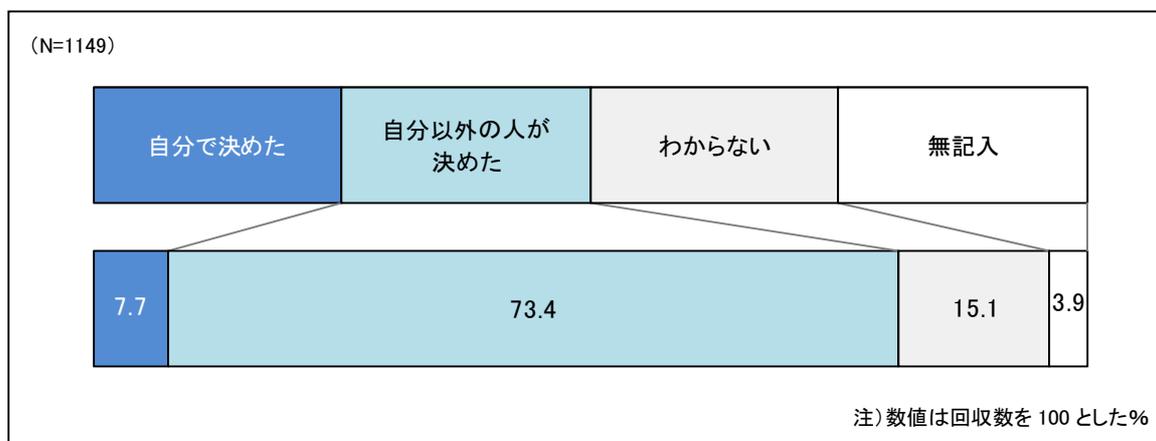
図表 問 2(3) 入所期間(SA)



④ 入所を決めた人

「自分で決めた」のは 7.7%にとどまっており、大半(73.4%)が「自分以外の人が決めた」と回答。

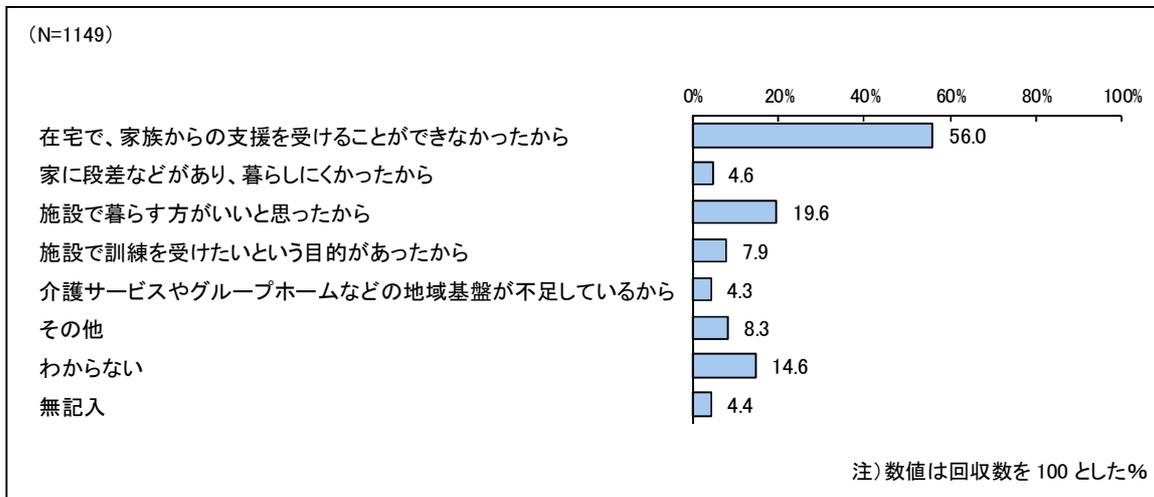
図表 問 2(4) 入所を決めた人(SA)



⑤ 施設入所の理由

「在宅で、家族からの支援を受けることができなかったから」(56.0%)という理由が最も多い。

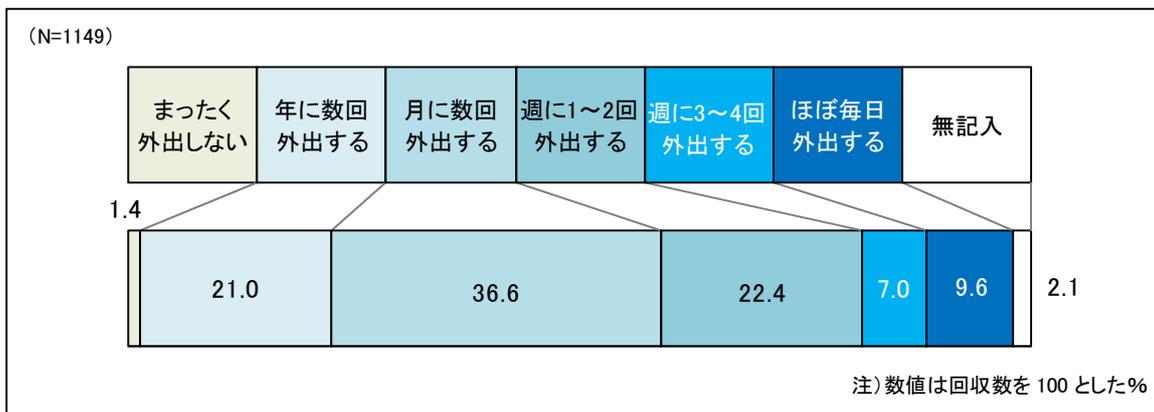
図表 問2(5) 施設入所の理由(MA)



⑥ 外出の頻度

「ほぼ毎日外出する」(9.6%)を含め、「週に1回以上」外出する方は4割近くを占める。逆に「年に数回以下」は2割強。

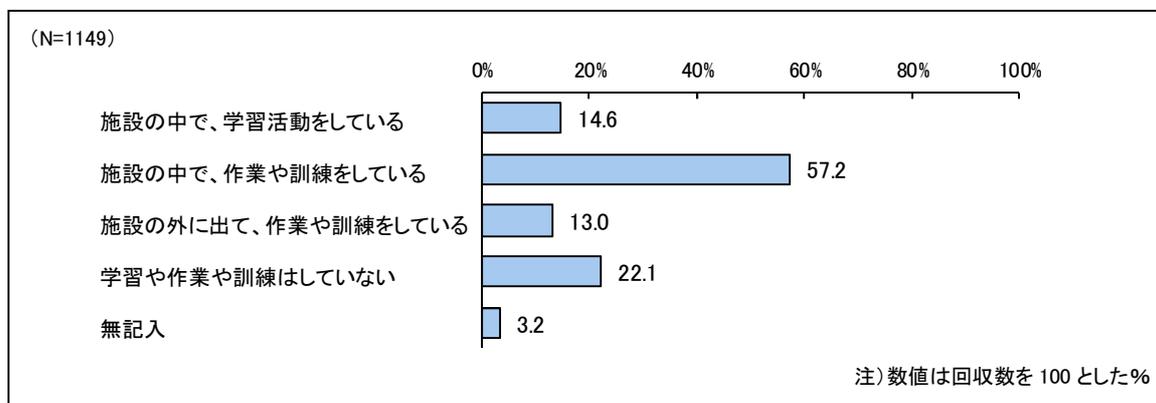
図表 問2(6) 外出の頻度(SA)



⑦ 作業・訓練の内容

全体の8割近くが「学習や作業や訓練」をしており、「施設の中で、作業や訓練をしている」(57.2%)、「施設の中で、学習活動をしている」(14.6%)など「施設の中で」という回答が目立つ。「施設の外に出て、作業や訓練をしている」は1割強(13.0%)にとどまっている。

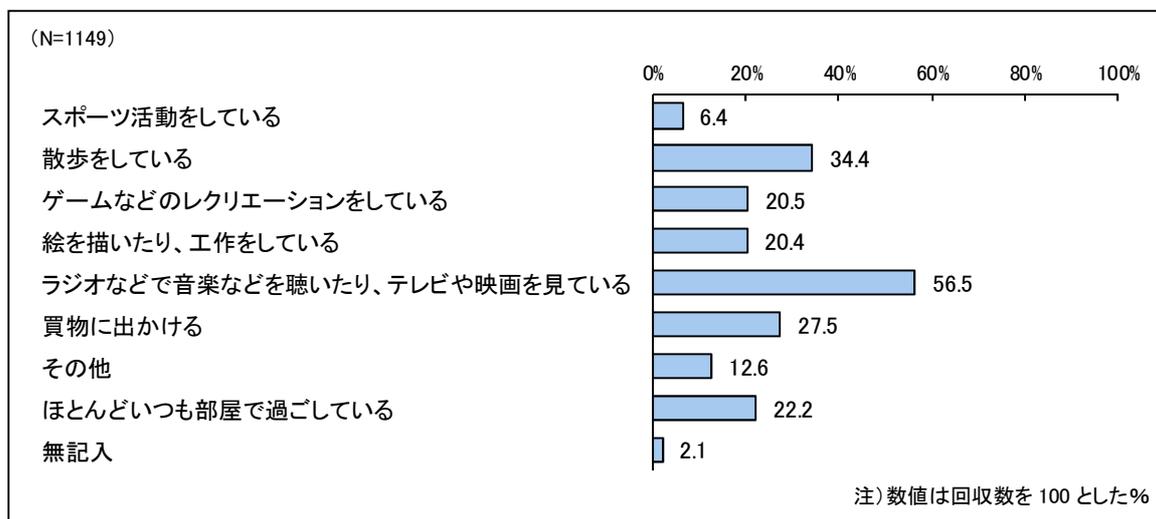
図表 問2(7) 作業・訓練の内容(MA)



⑧ 趣味や余暇活動

「ラジオなどで音楽などを聴いたり、テレビや映画を見ている」(56.5%)が最も多く、次いで、「散歩をしている」(34.4%)、「買物に出かける」(27.5%)が多い。

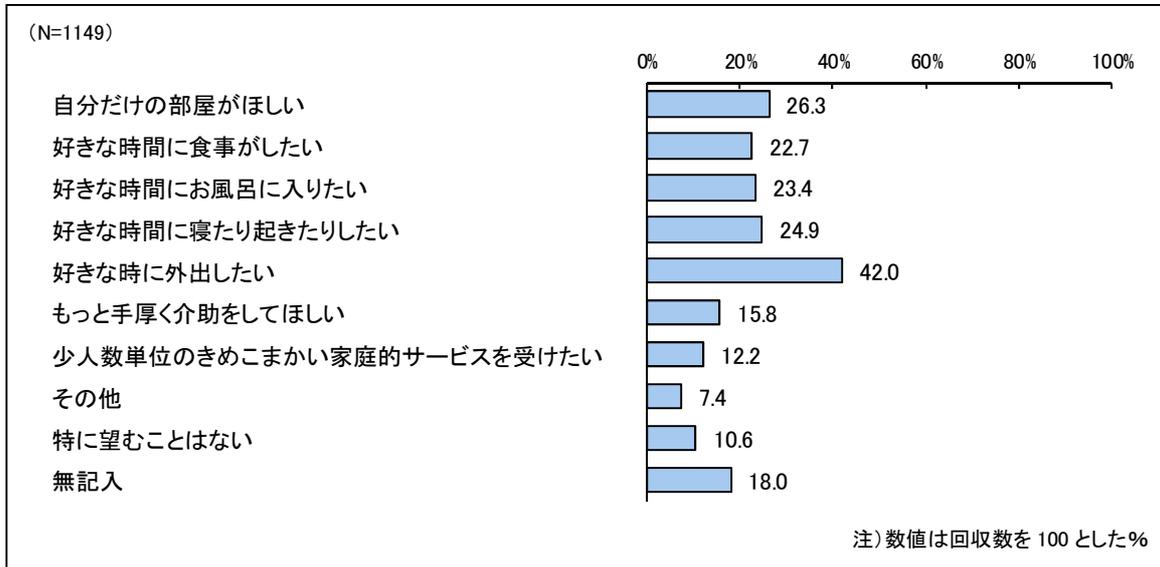
図表 問2(8) 趣味や余暇活動(MA)



⑨ 今の施設に望むこと

「好きな時に外出したい」(42.0%)を含め、時間を自由に使いたい要望が多い。

図表 問 2(9) 今の施設に望むこと(MA)

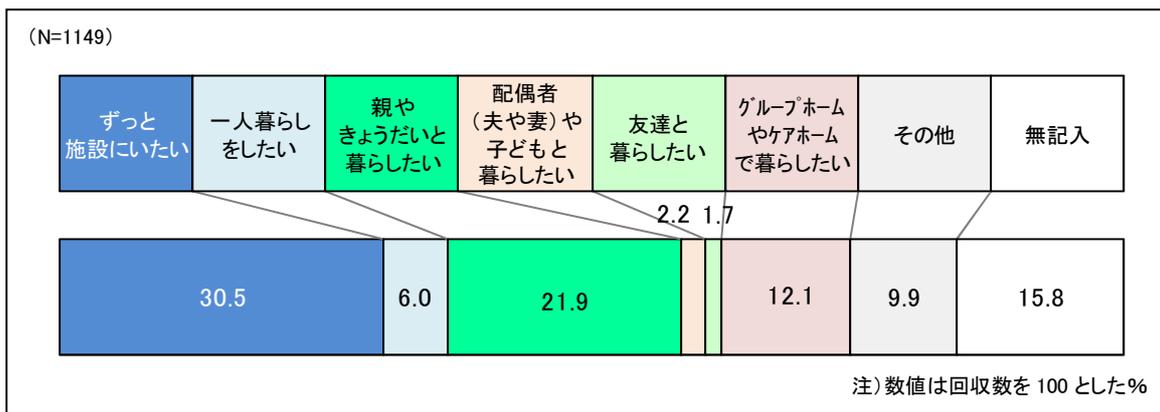


⑩ 地域移行をしたいと思うか

「ずっと施設にいたい」と回答した方が 30.5%いるものの、大半は地域移行を希望している。

「親やきょうだいと暮らしたい」(21.9%)が最も多く、次いで、「グループホームやケアホームで暮らしたい」(12.1%)が多い。

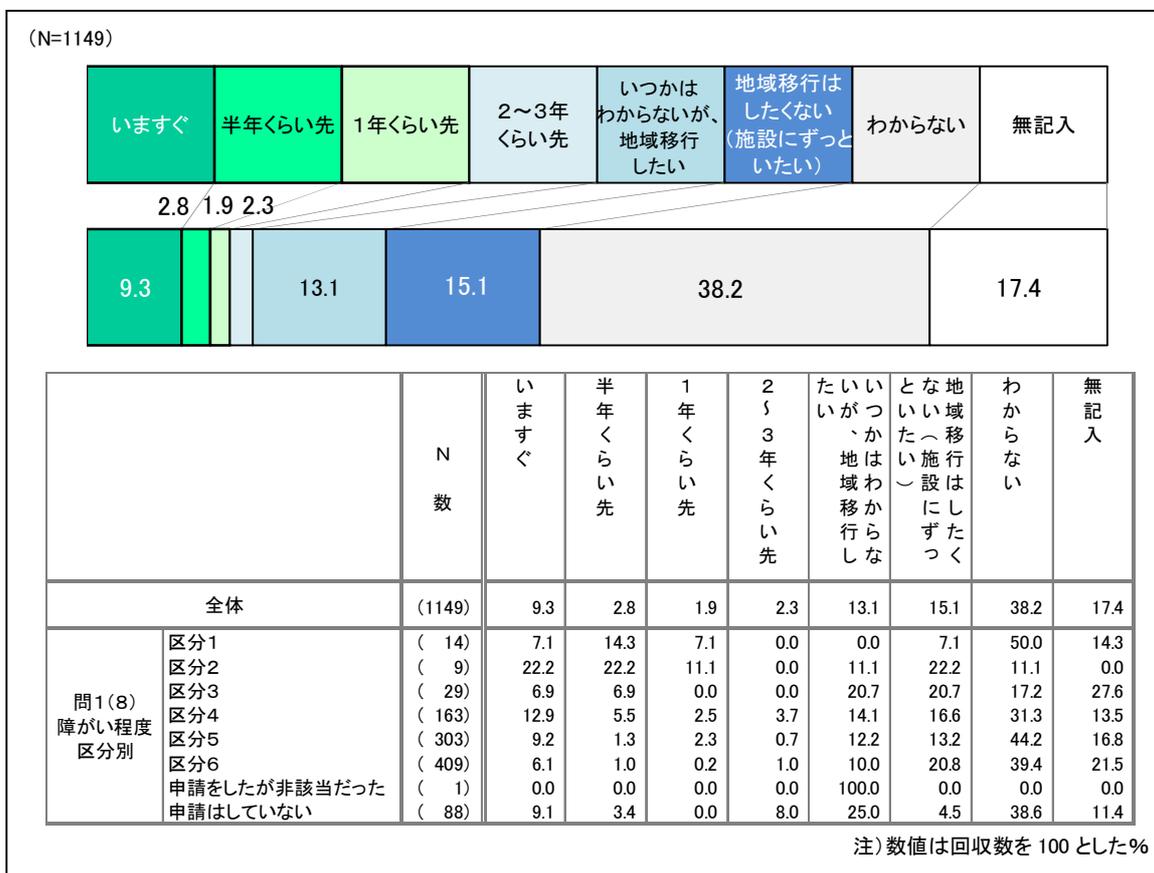
図表 問 2(10) 地域移行をしたいと思うか(SA)



⑪ 地域移行したい時期

大半が地域移行を希望する一方で、「いますぐ」地域移行したいと回答したのは9.3%のみ。「いつかはわからないが、地域移行したい」(13.1%)、「わからない」(38.2%)が半数を占める。

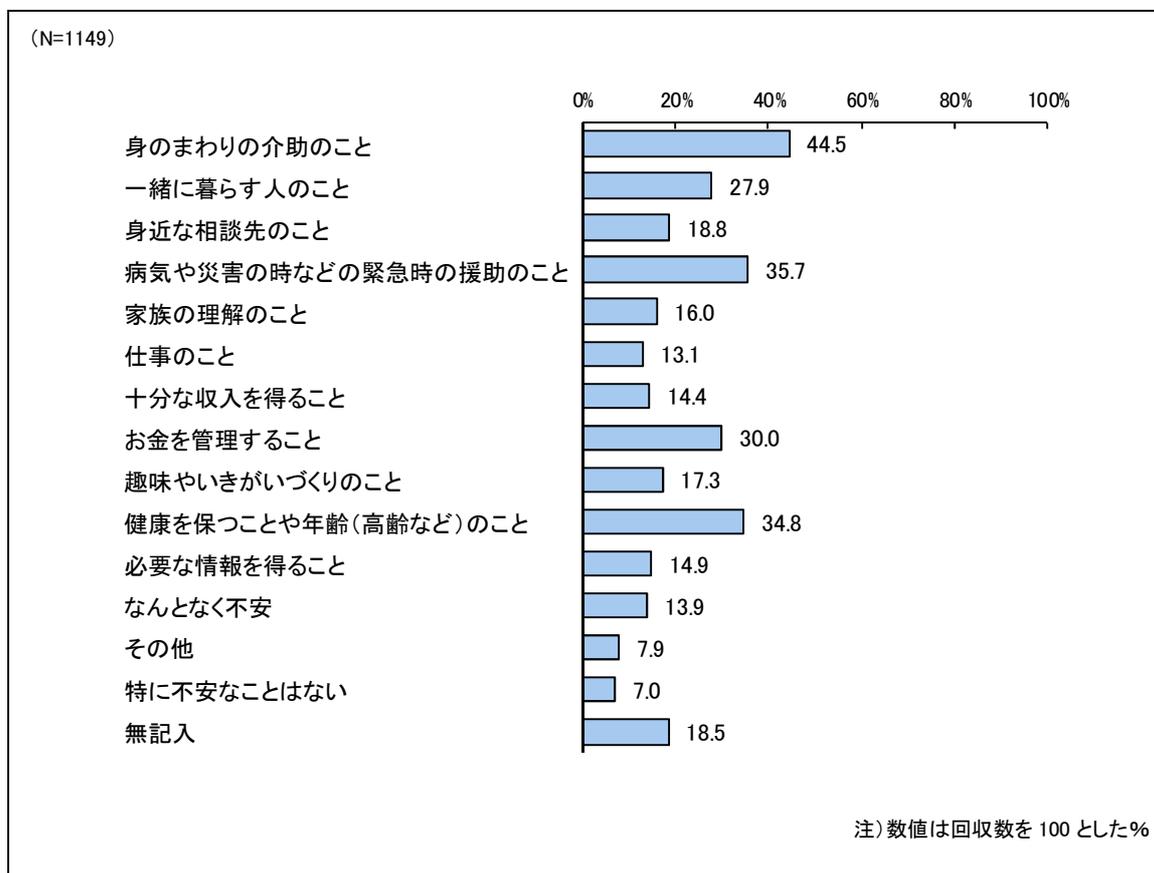
図表 問2(11) 地域移行したい時期(SA)



⑫ 地域移行で不安に思うこと

「身の回りの介助のこと」(44.5%)が最も多く、「病気や災害の時などの緊急時の援助のこと」(35.7%)、「健康を保つことや年齢(高齢など)のこと」(34.8%)、「お金を管理すること」(30.0%)が3割台で続く。

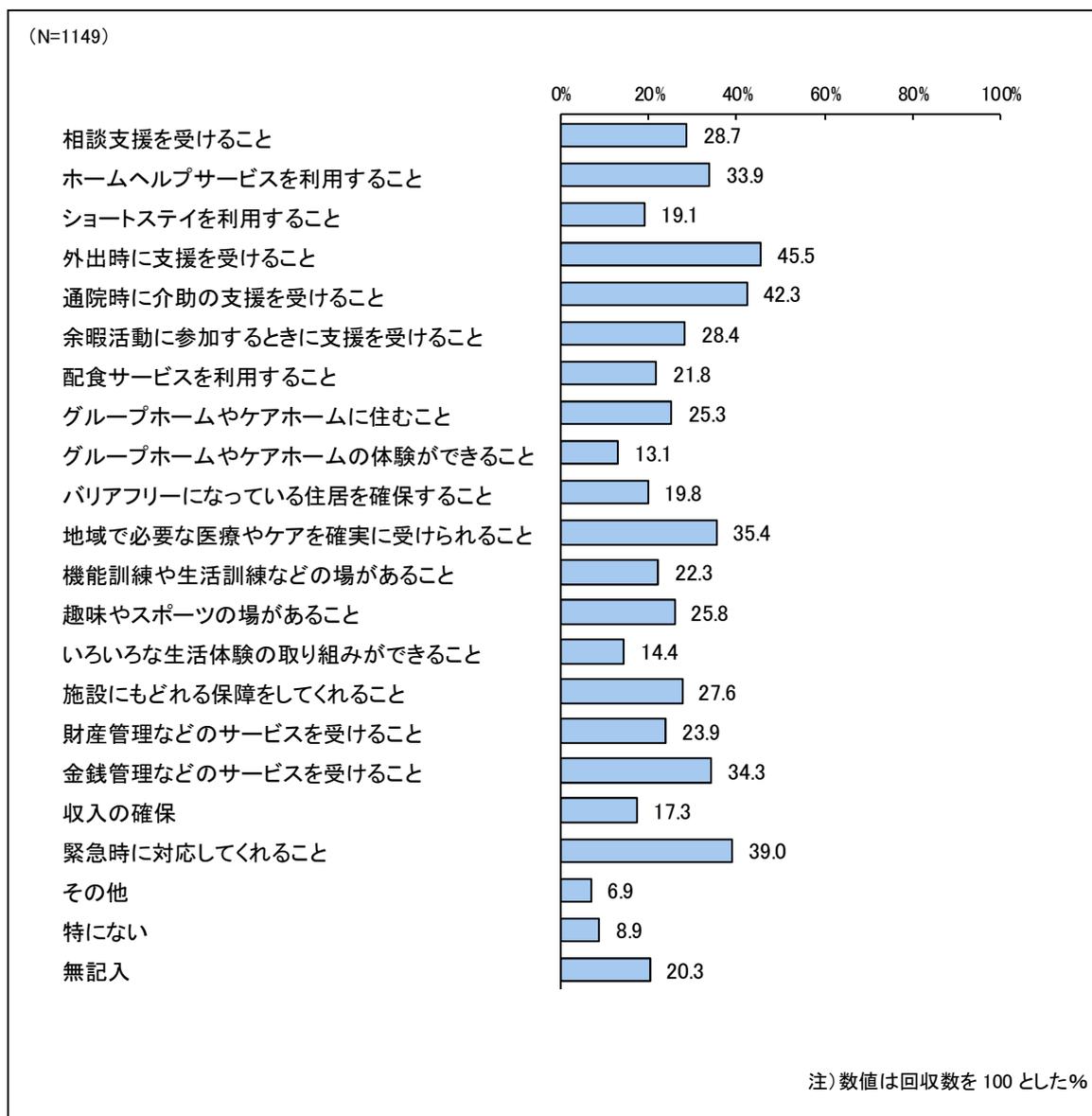
図表 問 2(12) 地域移行で不安に思うこと(MA)



⑬ 地域移行して必要と思うこと

「外出時に支援を受けること」(45.5%)が最も多く、次いで、「通院時に介助の支援を受けること」(42.3%)が多い。

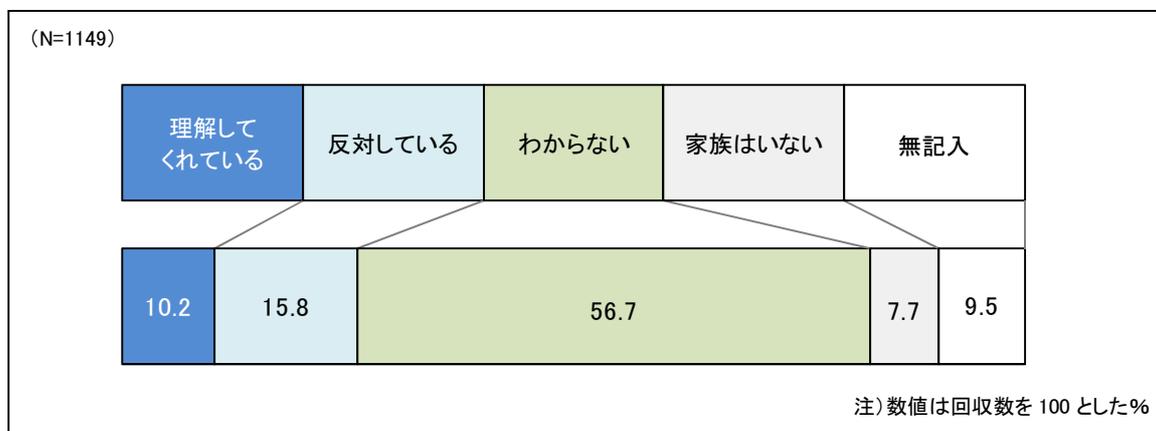
図表 問2(13) 地域移行して必要と思うこと(MA)



⑭ 地域移行に関する家族の理解

過半数(56.7%)が「わからない」と回答、また、「理解してくれている」(10.2%)よりも「反対している」(15.8%)が上回っている。

図表 問 2(14) 地域移行に関する家族の理解(SA)



⑮ 相談支援事業所への相談

約 2 割(21.1%)が「相談したいと思う」と回答。

図表 問 2(15) 相談支援事業所への相談(SA)

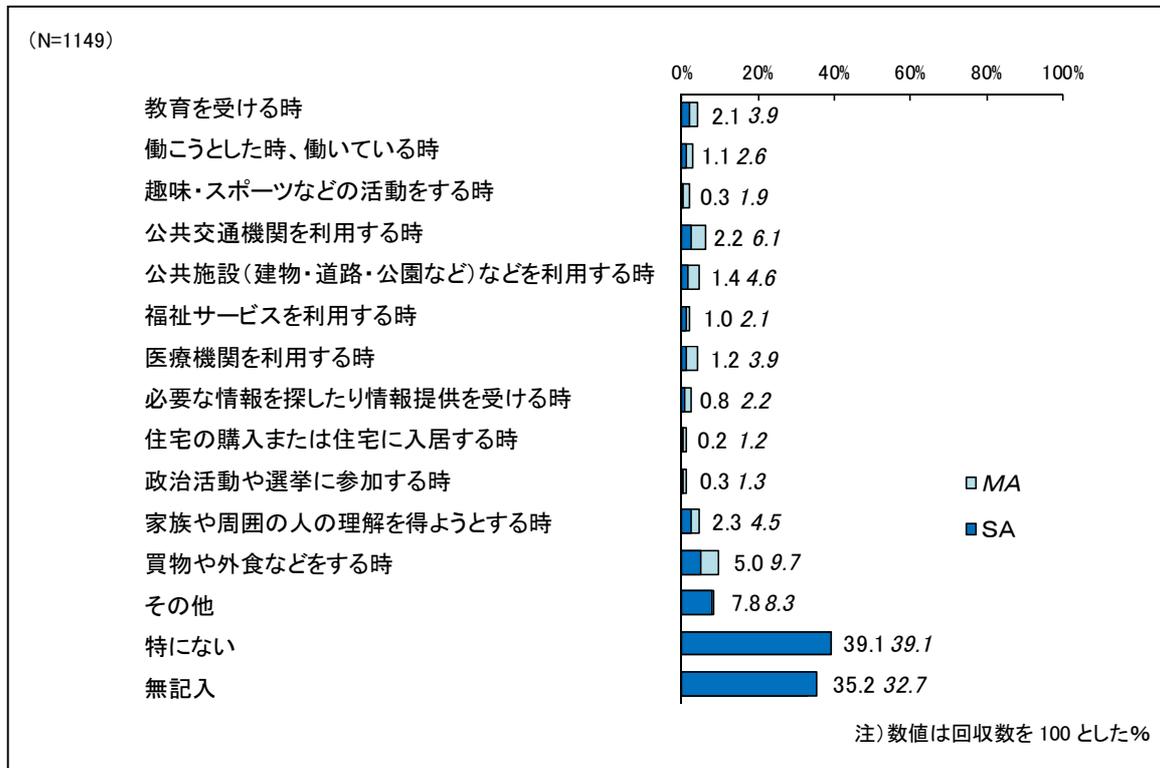


(3) 障がい者施設全般について

① 障がいを理由に不快と感じた時

複数回答でみると、「買物や外食などをする時」が 9.7%あがっているものの、全般に不快と感じた時は少ない。

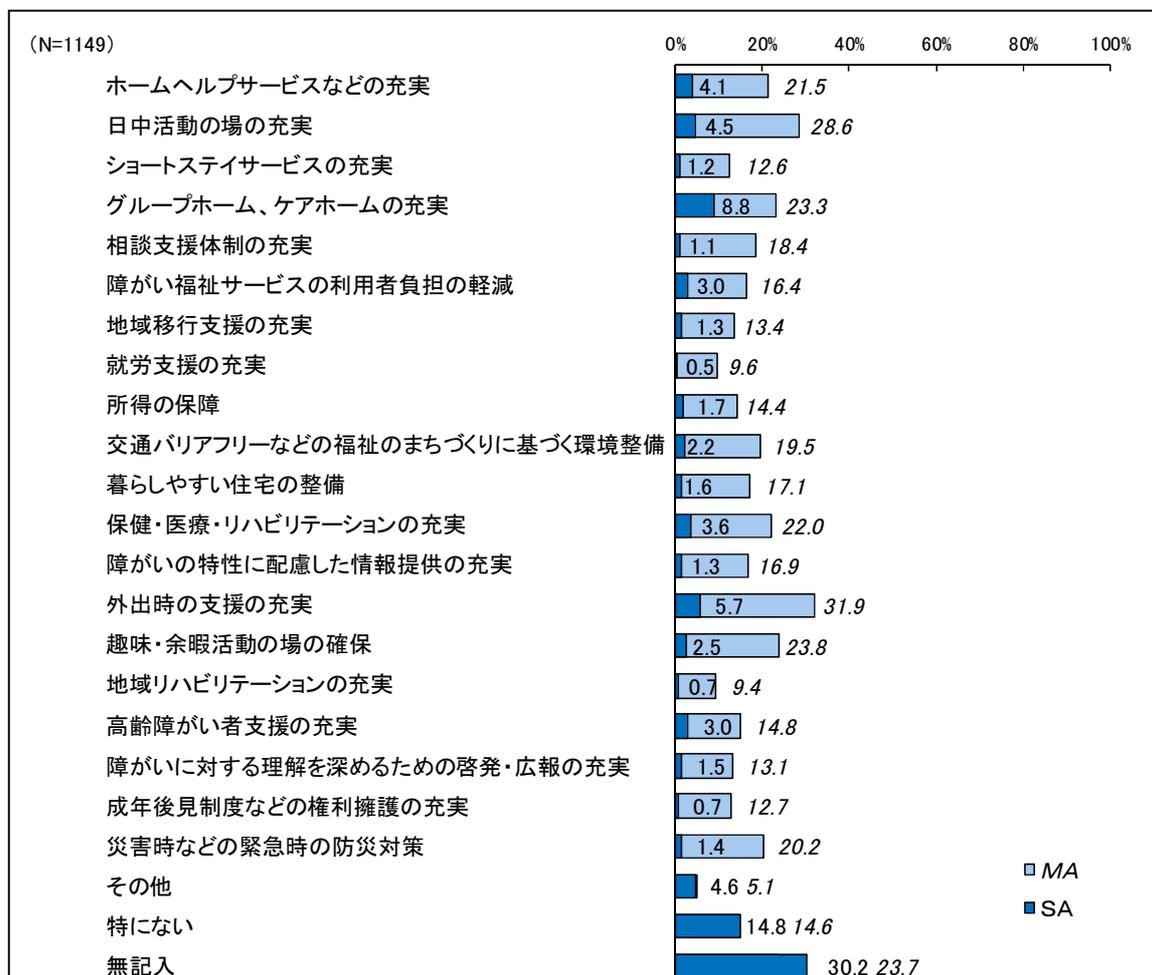
図表 問 3(1) 障がいを理由に不快と感じた時(MA/SA)



② 障がい者施策全般に望むこと

複数回答では、「外出時の支援」(31.9%)、単一回答では、「グループホーム、ケアホームの充実」(8.8%)が最も多い。

図表 問3(2) 障がい者施策全般に望むこと(MA/SA)



	N	施策																								
		ホームヘルプサービスなどの充実	日中活動の場の充実	ショートステイサービスの充実	グループホーム、ケアホームの充実	相談支援体制の充実	障がい福祉サービスの利用者負担の軽減	地域移行支援の充実	就労支援の充実	所得の保障	交通バリアフリーなどの福祉のまちづくりに基づく環境整備	暮らしやすい住宅の整備	保健・医療・リハビリテーションの充実	障がいの特性に配慮した情報提供	外出時の支援の充実	趣味・余暇活動の場の確保	地域リハビリテーションの充実	高齢障がい者支援の充実	障がいに対する理解を深めるための啓発・広報の充実	成年後見制度などの権利擁護の充実	災害時などの緊急時の防災対策	その他	特にない	無記入		
MA	全体	(1149)	21.5	28.6	12.6	23.3	18.4	16.4	13.4	9.6	14.4	19.5	17.1	22.0	16.9	31.9	23.8	9.4	14.8	13.1	12.7	20.2	5.1	14.6	23.7	
	問1(8)障がい程度区分別																									
	区分1	(14)	7.1	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	0.0	14.3	7.1	35.7	35.7	0.0	
	区分2	(9)	22.2	22.2	0.0	11.1	55.6	55.6	0.0	11.1	22.2	55.6	11.1	33.3	44.4	0.0	33.3	22.2	22.2	33.3	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	区分3	(29)	6.9	24.1	10.3	20.7	27.6	20.7	20.7	13.8	20.7	20.7	31.0	31.0	10.3	34.5	34.5	10.3	13.8	27.6	20.7	17.2	3.4	13.8	27.6	
	区分4	(163)	17.2	23.9	7.4	25.8	14.1	13.5	18.4	13.5	16.0	18.4	15.3	15.3	11.7	30.7	19.0	8.0	16.0	9.8	13.5	20.2	5.5	17.8	21.5	
	区分5	(303)	21.8	34.3	11.9	24.4	18.2	17.8	14.5	10.2	15.2	14.9	14.5	20.1	18.8	35.3	26.4	8.6	14.9	12.5	9.9	21.5	5.3	13.9	21.1	
区分6	(409)	27.4	34.7	17.8	27.1	20.8	17.1	10.3	5.9	12.7	27.6	21.5	29.3	21.3	37.2	27.6	11.2	18.8	14.7	12.5	22.7	4.9	11.7	22.7		
申請をしたが非該当だった	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0		
申請はしていない	(88)	18.2	20.5	13.6	19.3	18.2	17.0	17.0	17.0	11.4	12.5	17.0	18.2	13.6	19.3	21.6	10.2	12.5	14.8	9.1	17.0	1.1	25.0	26.1		
SA	全体	(1149)	4.1	4.5	1.2	8.8	1.1	3.0	1.3	0.5	1.7	2.2	1.6	3.6	1.3	5.7	2.5	0.7	3.0	1.5	0.7	1.4	4.6	14.8	30.2	
	問1(8)障がい程度区分別																									
	区分1	(14)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	35.7	50.0	
	区分2	(9)	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	22.2	
	区分3	(29)	3.4	3.4	0.0	10.3	0.0	6.9	3.4	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	6.9	0.0	6.9	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	13.8	34.5	
	区分4	(163)	0.6	3.1	0.0	9.8	0.6	3.7	1.8	1.2	1.2	3.1	1.2	6.7	1.8	0.6	3.1	2.5	0.0	3.1	4.9	18.4	18.4	27.6	27.6	
	区分5	(303)	3.0	6.6	1.0	9.6	1.0	2.0	1.3	0.7	1.3	1.0	2.0	2.6	1.3	6.9	4.3	1.7	4.0	1.3	0.7	0.3	5.0	13.9	28.7	
区分6	(409)	6.1	4.6	2.2	10.3	0.0	3.4	0.7	0.0	1.7	3.4	1.5	5.1	2.2	5.4	2.7	0.0	4.2	1.2	0.7	1.2	4.9	11.7	26.7		
申請をしたが非該当だった	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0		
申請はしていない	(88)	1.1	3.4	1.1	6.8	4.5	2.3	2.3	1.1	1.1	0.0	0.0	3.4	2.3	0.0	4.5	1.1	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	25.0	35.2		

注) 数値は回収数を100とした%

③ 障がい者施策全般についての意見

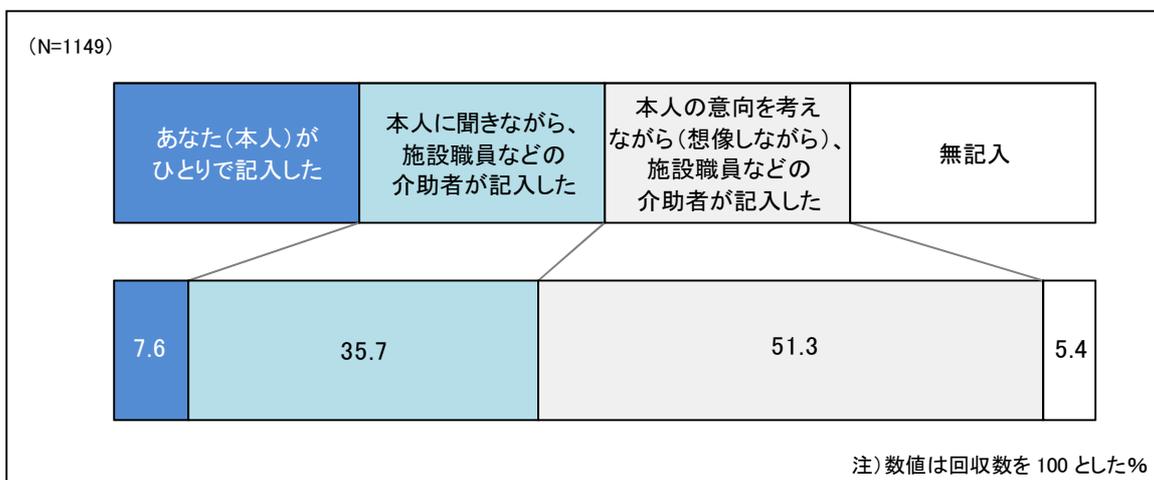
障がい者施策全般についての意見を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問3(3) 障がい者施策全般についての意見

- ・ 本人の意志と、家族の意見が、全くかみ合わず、それでも本人の意志や希望を叶えさせてあげることが出来る様な施策をのぞんでいます。
- ・ 地域移行には全ての方が向いている訳ではなく、施設に入所せざるをえない方もいるという事。また、移行した時、本当に地域でごく当たり前に生活できるだけの物が、国や地方の行政が用意できているのか疑問です。利用者の方が、施策にふり回されているように思います。
- ・ 障がいのある方の病院の受診を充実して欲しい。夜間の救急時には受診を断られる為、障がいのある方への理解を広めて欲しいです。
- ・ 日中活動において、障がい者の方のできる仕事、作業をもっと行政の方で広めて欲しいのと、紹介して欲しいです。あまりにも作業、仕事が少なくて、日中活動をどのようにしたら良いか困っています。
- ・ 地域移行をすすめる割に、受け皿がなく、行き場がない。障害者自立支援法のサービスになって、障がい者にとって、幸せなものになったのか、とても疑問に感じる。

④ 調査票記入者

図表 問3(4) 記入者

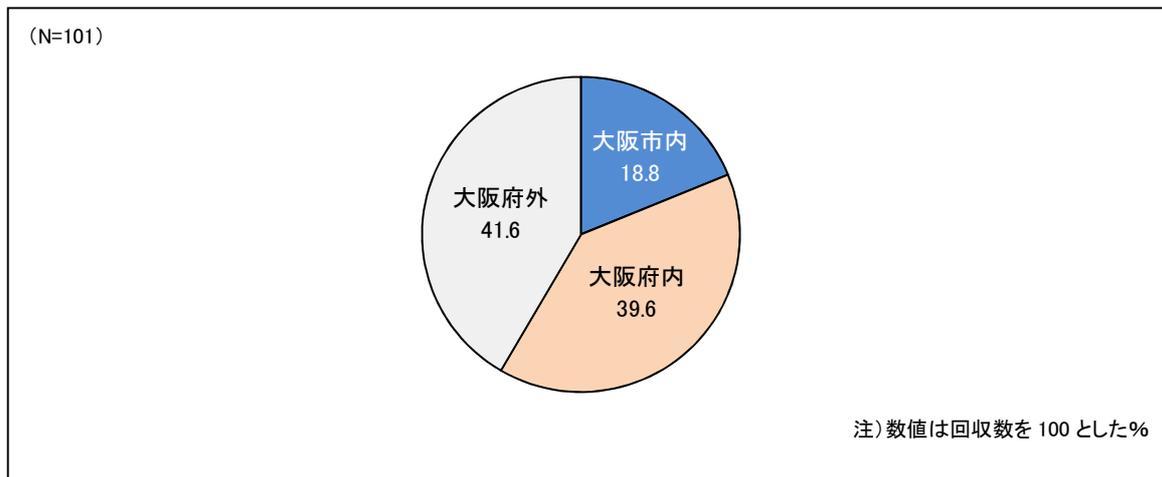


8. 障がい者(児)基礎調査(入所施設管理者用) 調査結果

(1) 施設の概要

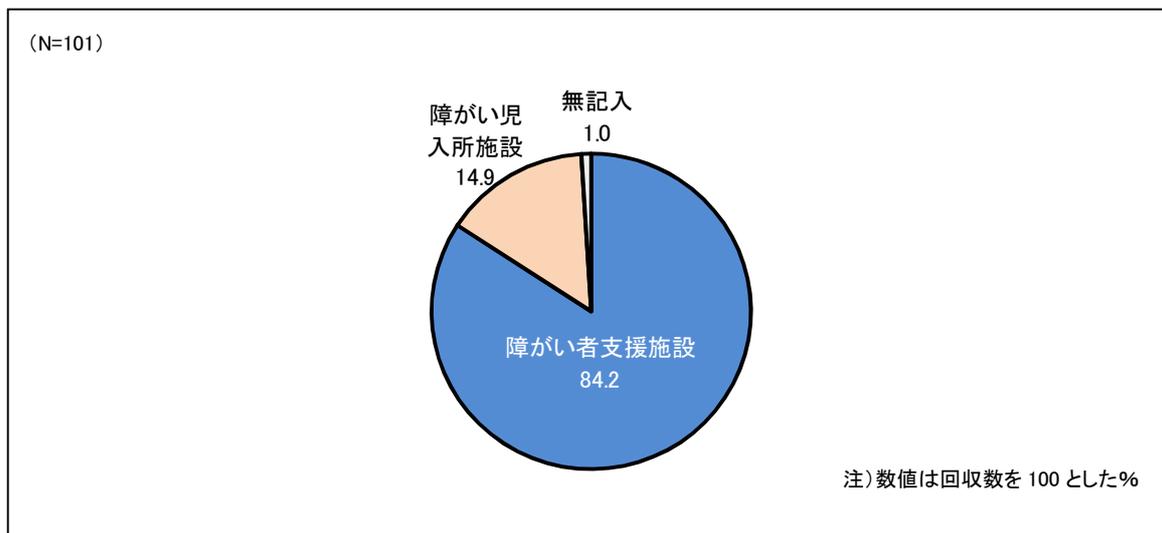
① 施設の所在地

図表 問 1(1) 施設の所在地(SA)



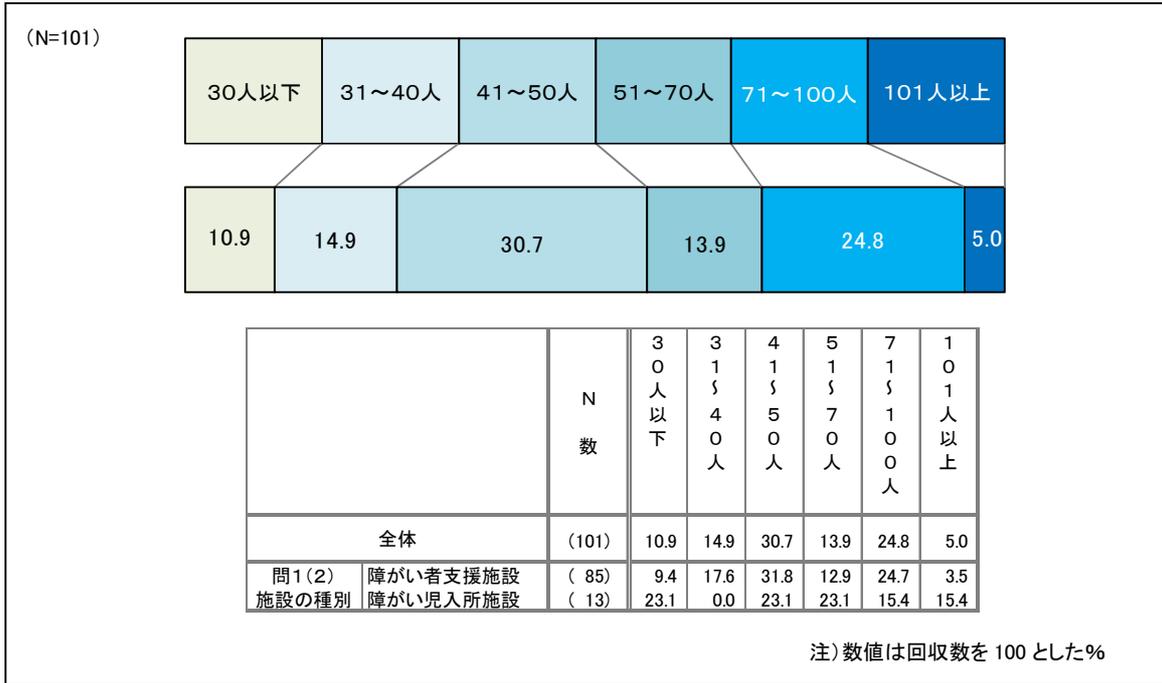
② 施設の種類

図表 問 1(2) 施設の種類(SA)



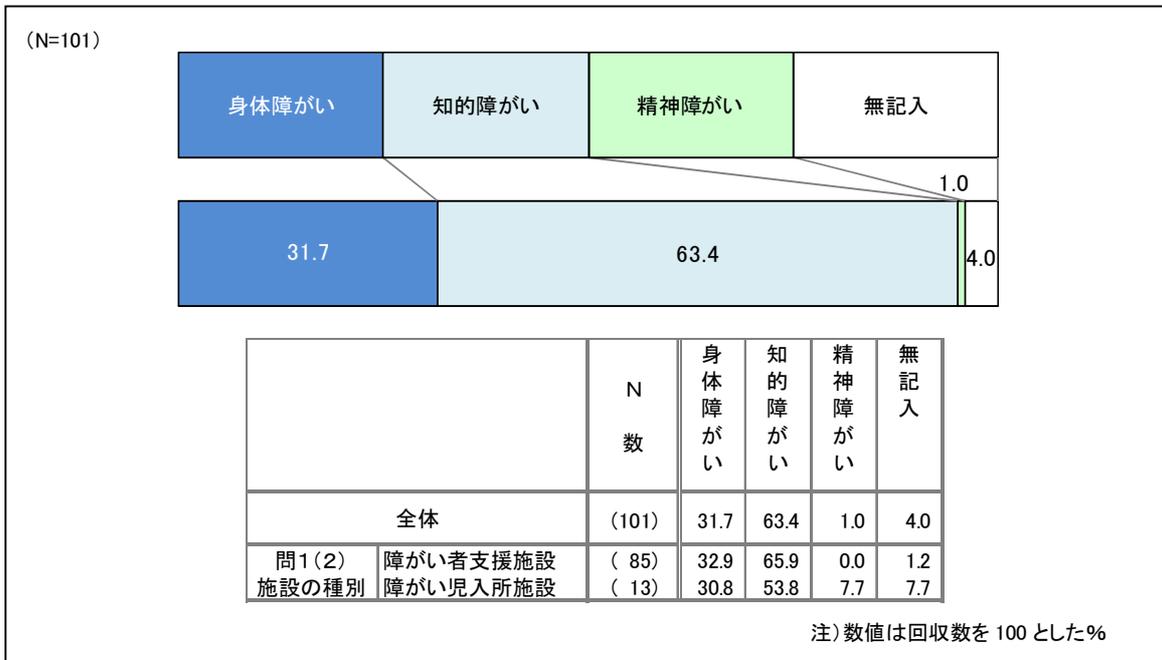
③ 入所定員

図表 問1(3) 入所定員(SA)



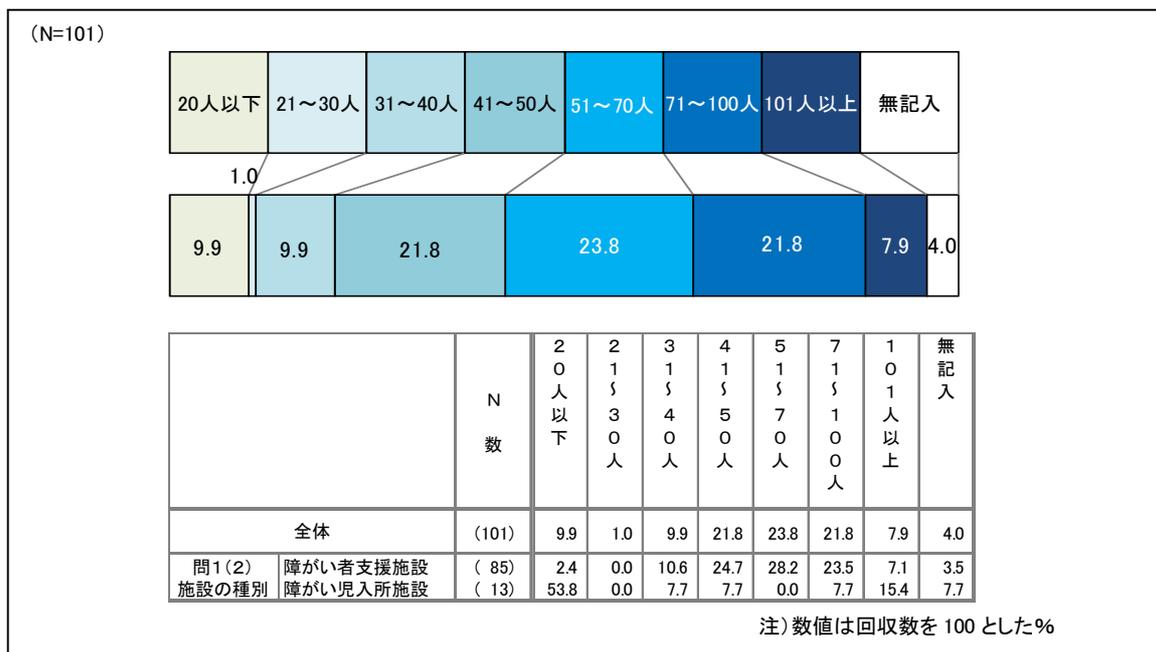
④ 入所者で最も多い障がいの種別

図表 問1(5) 入所者で最も多い障がいの種別(MA)



⑤ 日中活動系サービスの利用定員

図表 問1(6) 日中活動系サービスの利用定員(MA)

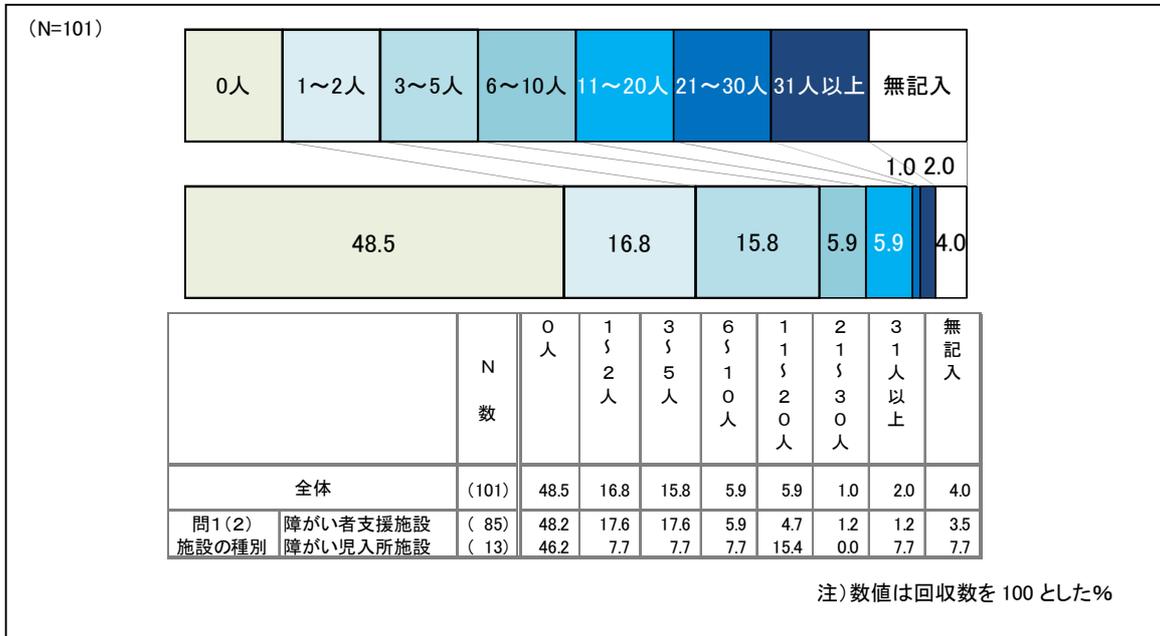


(2) 強度行動障がいのある方への支援について

① 強度行動障がいのある方の人数

強度行動障がい者がいると回答した施設は 47.5%。その大半が「1～2 人」(16.8%)、「3～5 人」(15.8%)。

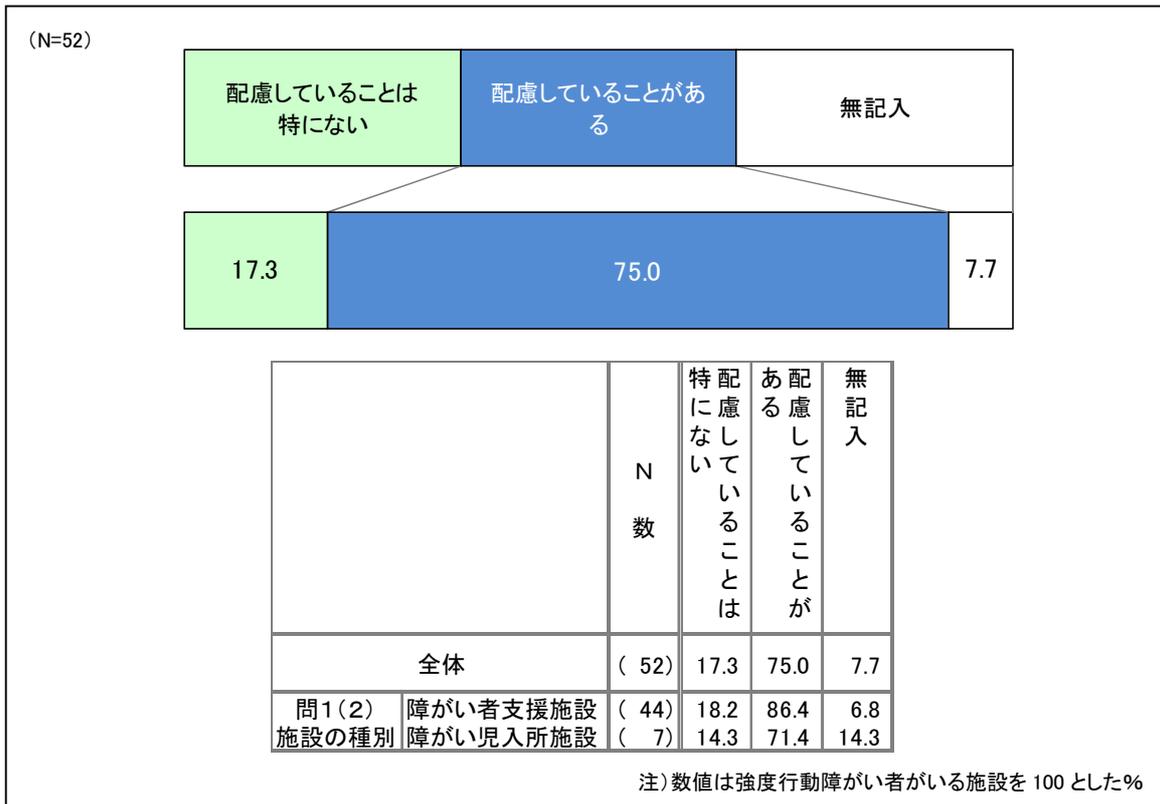
図表 問 2(1) 強度行動障がいのある方の人数(SA)



② 強度行動障がいのある方に対する配慮

7 割以上(75.0%)が強度行動障がい者には「配慮していることがある」と回答。

図表 問 2(2) 強度行動障がいのある方に対する配慮(SA)



③ 強度行動障がいのある方に対して配慮している具体例

強度行動障がいのある方に対して配慮している具体例を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

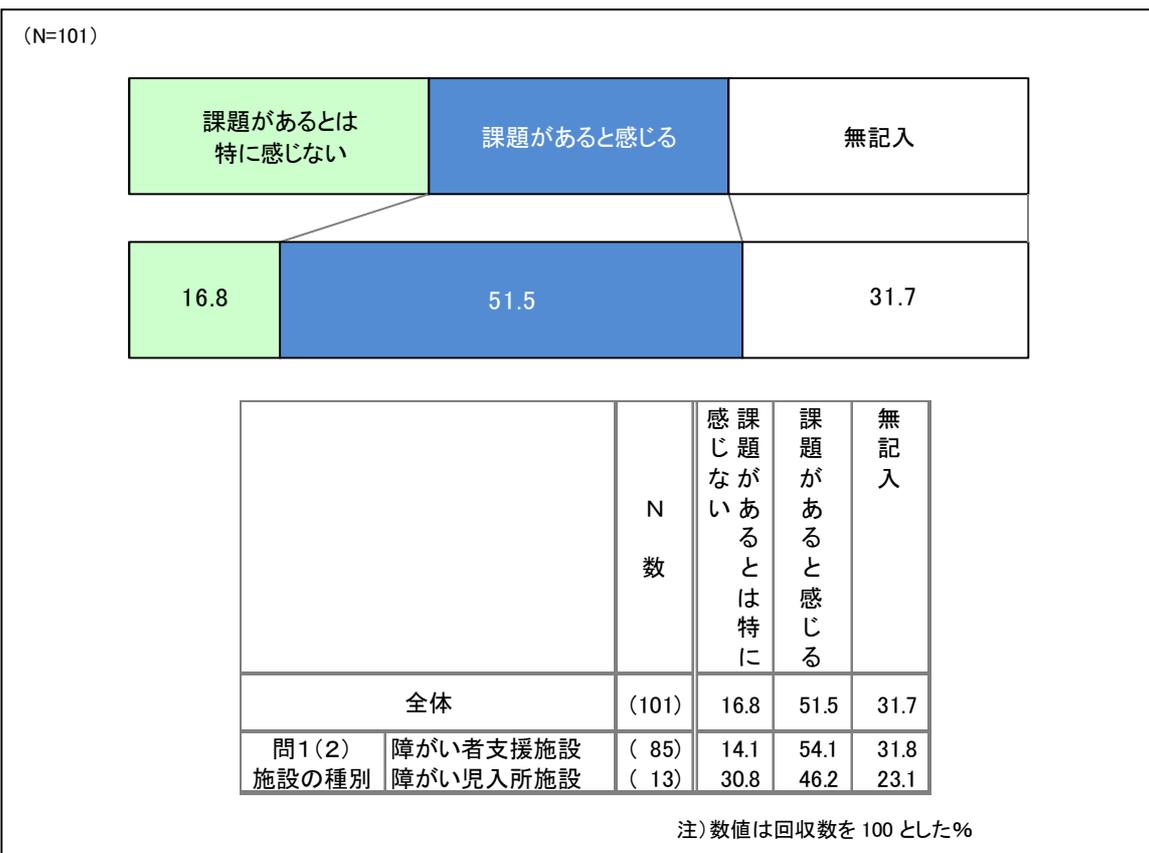
図表 問 2(2) 強度行動障がいのある方に対して配慮している具体例

- ・ マンツーマン(個別)対応
- ・ 居室や食堂環境の配慮
- ・ 刺激のない環境作り
- ・ 日常生活場面や生活介護での構造化
- ・ 絵、写真、カードを利用したコミュニケーションやスケジュールの提示
- ・ 自閉症に対する支援の実施(構造化、TEACCH、PECSなど)

④ 強度行動障がいのある方に対する支援の課題

過半数(51.5%)が施設内における強度行動障がい者の支援に「課題があると感じる」と回答。

図表 問 2(3) 強度行動障がいのある方に対する支援の課題(SA)



⑤ 強度行動障がいのある方に対する支援の課題についての意見

強度行動障がいのある方に対する支援の課題を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問2(3) 強度行動障がいのある方に対する支援の課題についての意見

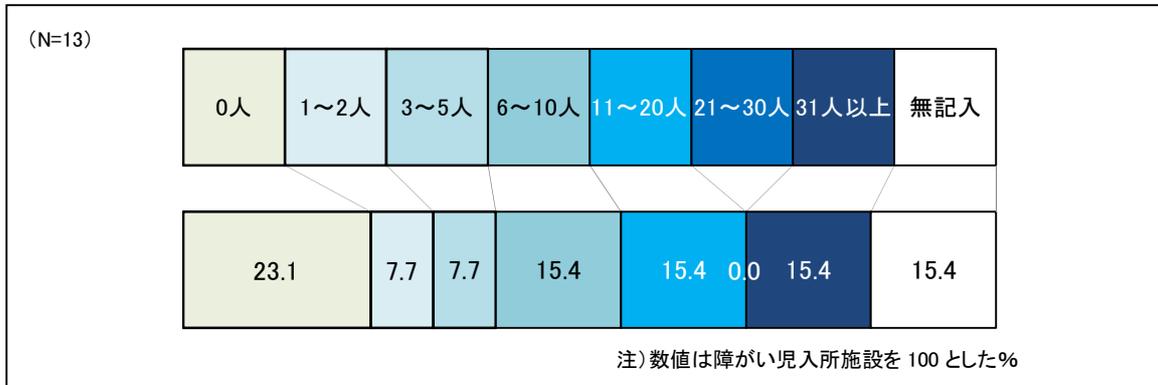
- ・ 人員配置が乏しい中で対応しなくてはならない
- ・ 他の方の生活を守ることとご本人の権利を守ることを両立させることが困難
- ・ 他の障がい者との共存・他の障がい者の行動障がいへの理解
- ・ 強度行動障がいの対応に習熟したスタッフの不足
- ・ 共有スペースでの他利用者への他害行為、物壊し等の事故の多発
- ・ 感覚刺激が鋭敏となる表れのひとつとして脱衣・露出・こだわりが結びついた場合の支援
- ・ 奇声、大声に対する他の利用者への配慮・暴力や粗暴な行動への対応

(3) 加齢児の方への支援について

① 加齢児の入所者数

加齢児がいると回答した施設は 61.5%。

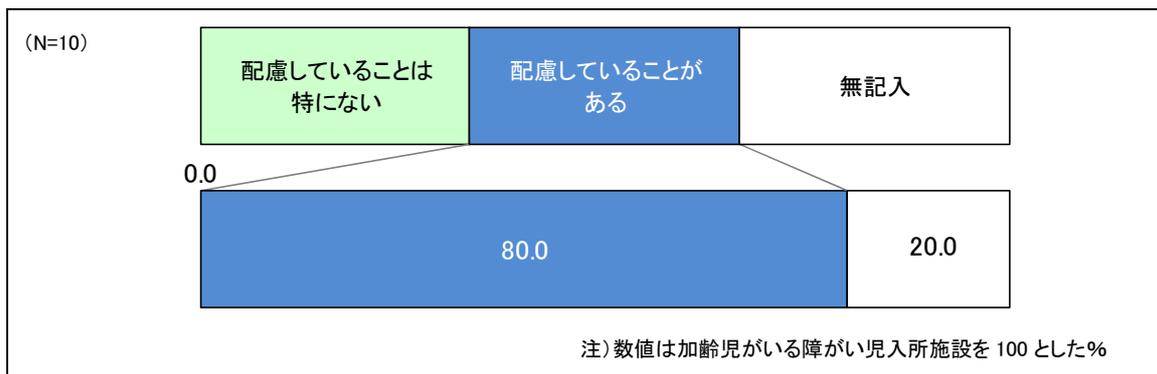
図表 問 3(1) 加齢児の入所者数(SA)



② 加齢児に対する配慮

「配慮していることは特にない」と回答した施設は皆無。

図表 問 3(2) 加齢児に対する配慮(SA)



③ 加齢児に対する配慮の具体例

加齢児に対して配慮している具体例を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

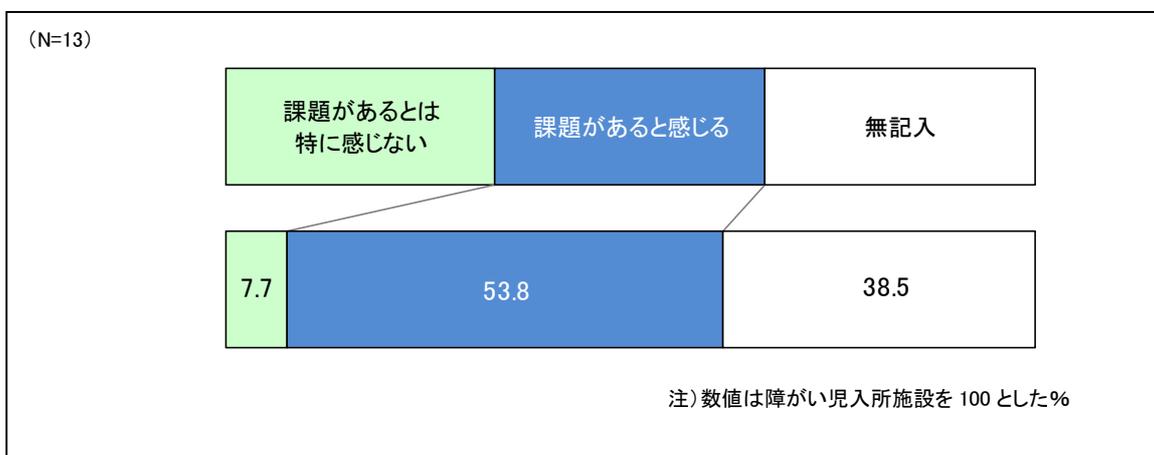
図表 問 3(2) 加齢児に対する配慮の具体例

- ・ 児童基本の生活(食事や入浴)時間をずらす。居室はなるべく1~2名居室。
- ・ 療育活動に対し一定の年令的配慮を行っている。
- ・ 福祉型障害児入所施設であるため年齢超過者等の地域移行に力を入れている。
- ・ 幼児の入所者が増えてきたため事故が起こらないよう注意している。
- ・ 呼称。プライバシーの保護。人権。
- ・ 進路先について、積極的に関係機関と話をするようにしている。実際には決まらない事が多いので、その方法等苦慮することも多い。

④ 加齢児に対する支援の課題

過半数(53.8%)が施設内における加齢児の支援に「課題があると感じる」と回答。

図表 問 3(3) 加齢児に対する支援の課題(SA)



⑤ 加齢児に対する支援の課題についての意見

加齢児に対する支援の課題を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問 3(3) 加齢児に対する支援の課題についての意見

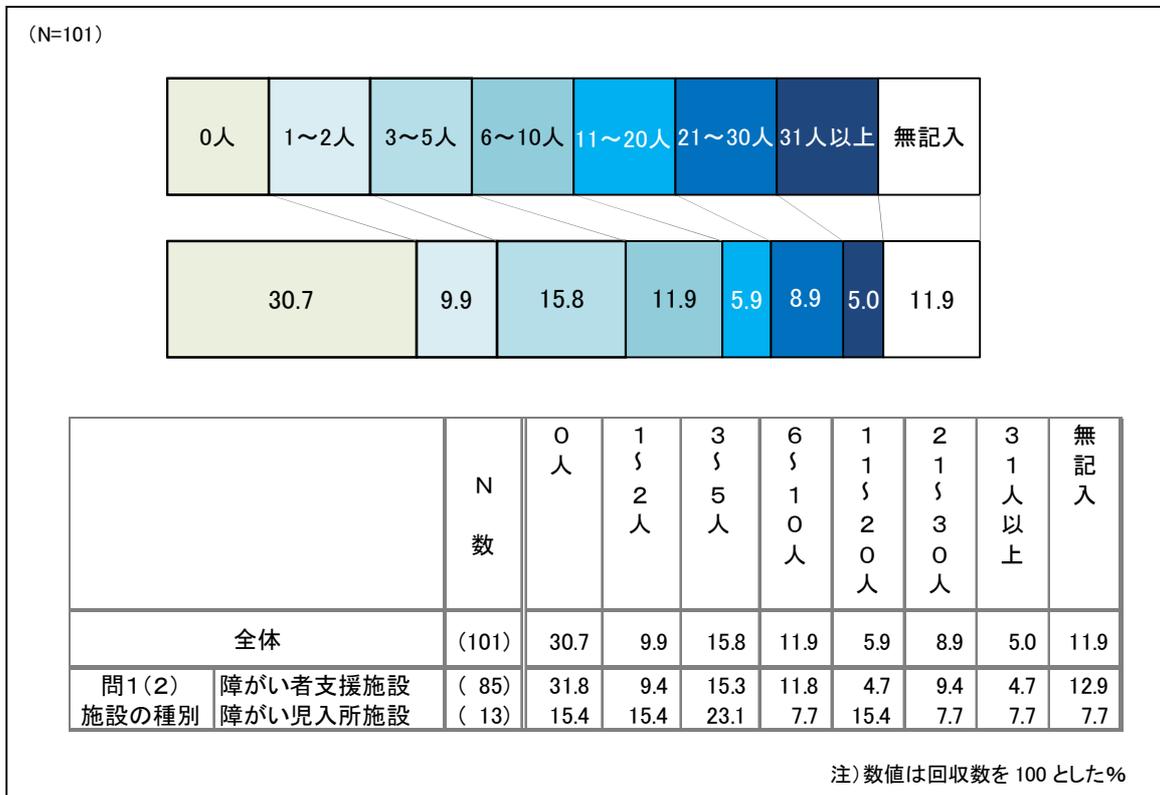
- ・ 地域移行先。特に当所では現在重度で行動障がい強い方ばかりなので見つからない。
- ・ 支援学校の時のようにマンツーマンでかかわる時間が人員的に取れないため、療育的な関わりは減っていると感じる。
- ・ 本人を尊重した支援について(入所における児童の割合が多い。当施設に入所していること、今後していくことがよいのかどうか。)
- ・ 家庭の事情等により、措置入所している方が18才を迎えた時に、家庭の状況が改善されていることは少なく契約が必要な福祉サービスへの移行が難しい。
- ・ 安定した日中活動を保障したい。マンパワーの問題がいちばん大きいです

(4) 発達障がいのある方への支援について

① 発達障がいのある方の人数

発達障がい児がいると回答した施設は 57.4%。そのうち、「3～5 人」(15.8%)という施設が最も多い。

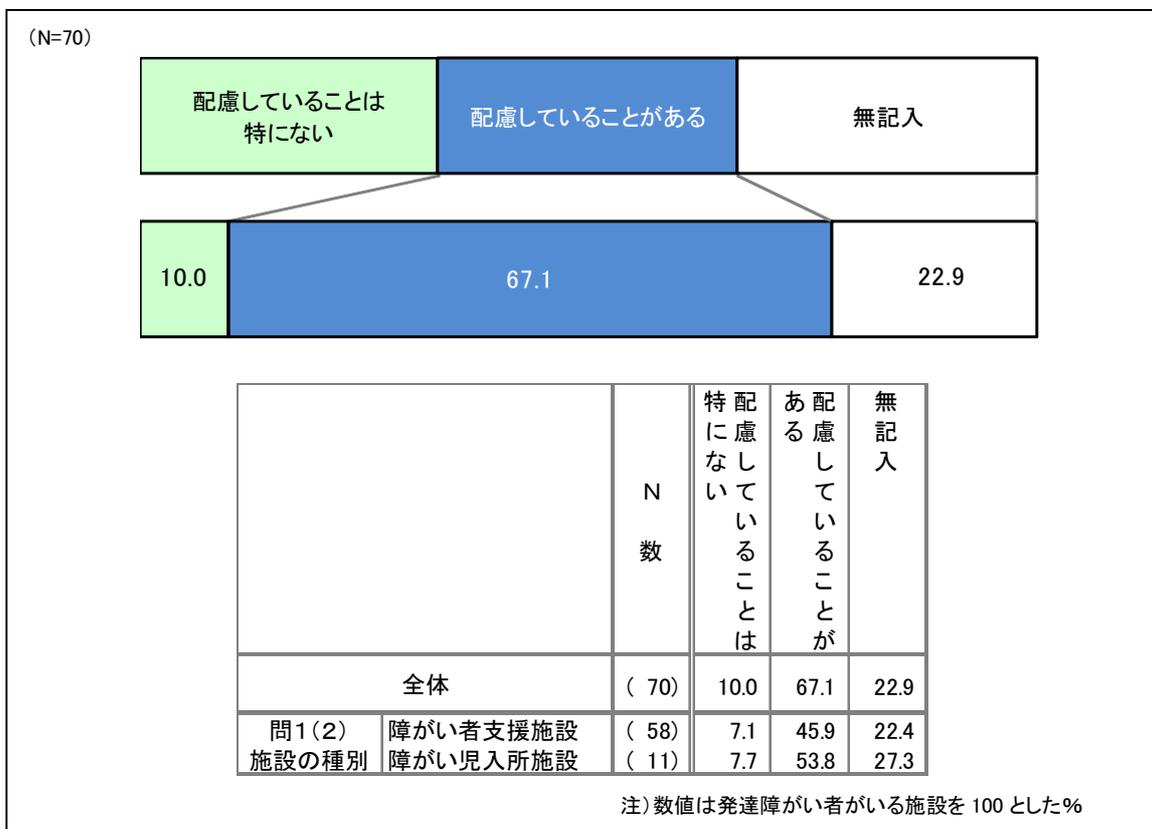
図表 問 4(1) 発達障がいのある方の人数(SA)



② 発達障がいのある方に対する配慮

施設の約 2/3(67.1%)が発達障がい児に「配慮していることがある」と回答。

図表 問 4(2) 発達障がいのある方に対する配慮(SA)



③ 発達障がいのある方に対する配慮の具体例

発達障がいのある方に対して配慮している具体例を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

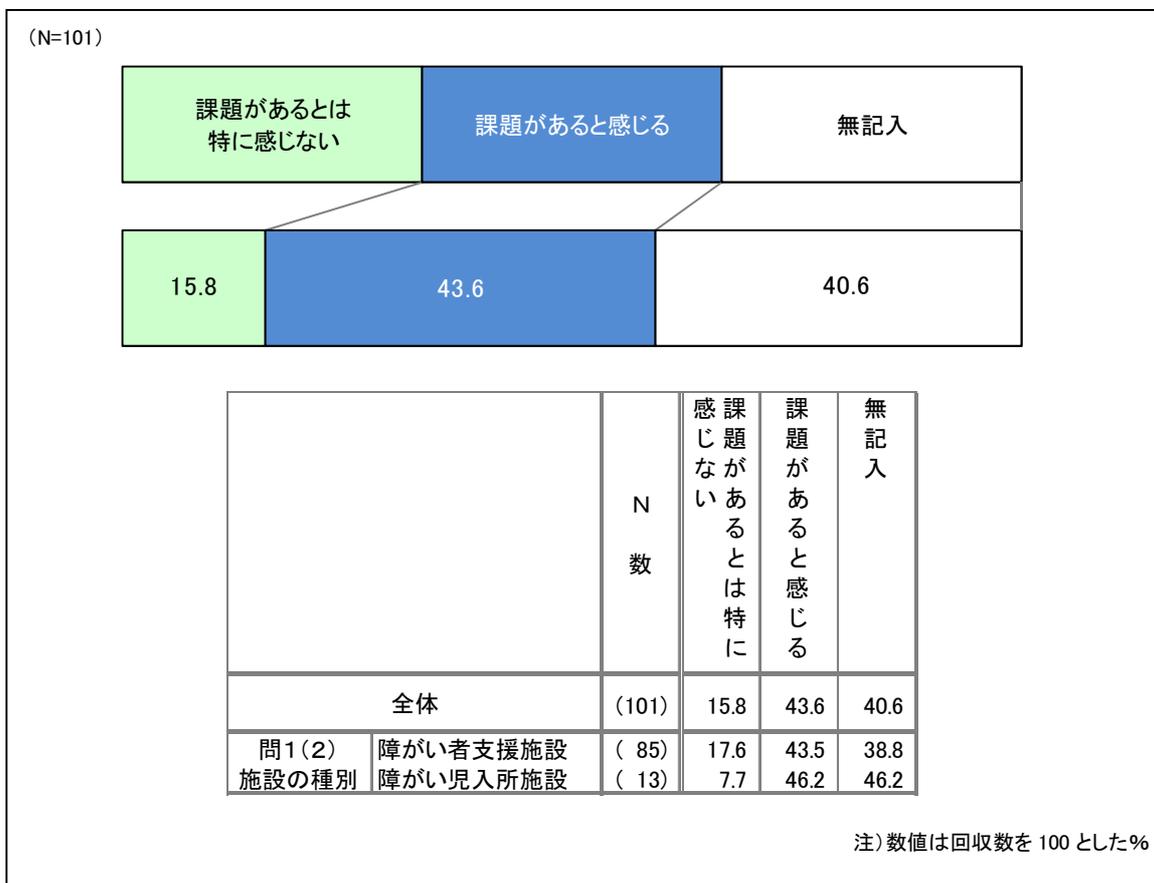
図表 問 4(2) 発達障がいのある方に対する配慮の具体例

- ・ カード、サイン、文字、絵など非言語的コミュニケーションの手段の活用。
- ・ 障がい特性を理解する為の研修やより良い支援の為の委員会の設置。
- ・ 個室、個別の対応。
- ・ 障がい特性をきちんと理解した対応にこころがけている。
- ・ 環境面についても本人が安心できる場所を試行錯誤しながら取り組んでいる。

④ 発達障がいのある方に対する支援の課題

4割強(43.6%)が施設内における発達障がい者の支援に「課題があると感じる」と回答。

図表 問4(3) 発達障がいのある方に対する支援の課題(SA)



⑤ 発達障がいのある方に対する支援の課題についての意見

発達障がいのある方に対する支援の課題を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問4(3) 発達障がいのある方に対する支援の課題具体例

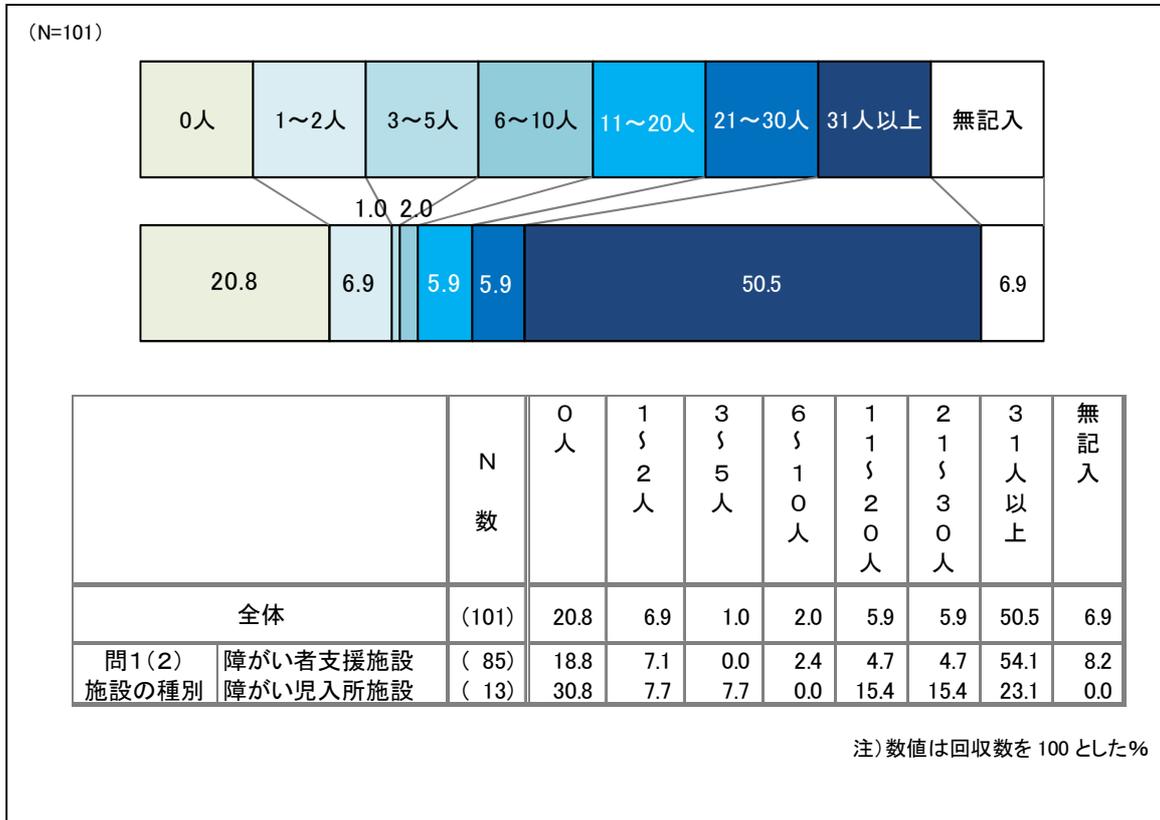
- ・ 個別空間の設定が難しい(居室や共有スペースだけでは場所が限られる)
- ・ コミュニケーション手段・意思のくみ取り
- ・ 知的障がいと精神障がいと関係が難しい場合が多い
- ・ 集団的なケアが主となっているため個人的なケアに多くの時間をかけにくい現状がある
- ・ 自閉症に対する理解を深める、スキルアップ。
- ・ 支援側の課題として、職員の統一した支援が難しい。(研修等行っても、全員への周知が難しい等)

(5) 医療的ケアの必要な方への支援について

① 医療的ケアの必要な方の人数

7割以上(72.3%)の施設が、医療的ケアの必要な方がいると回答。その大半が「31人以上」(50.5%)。

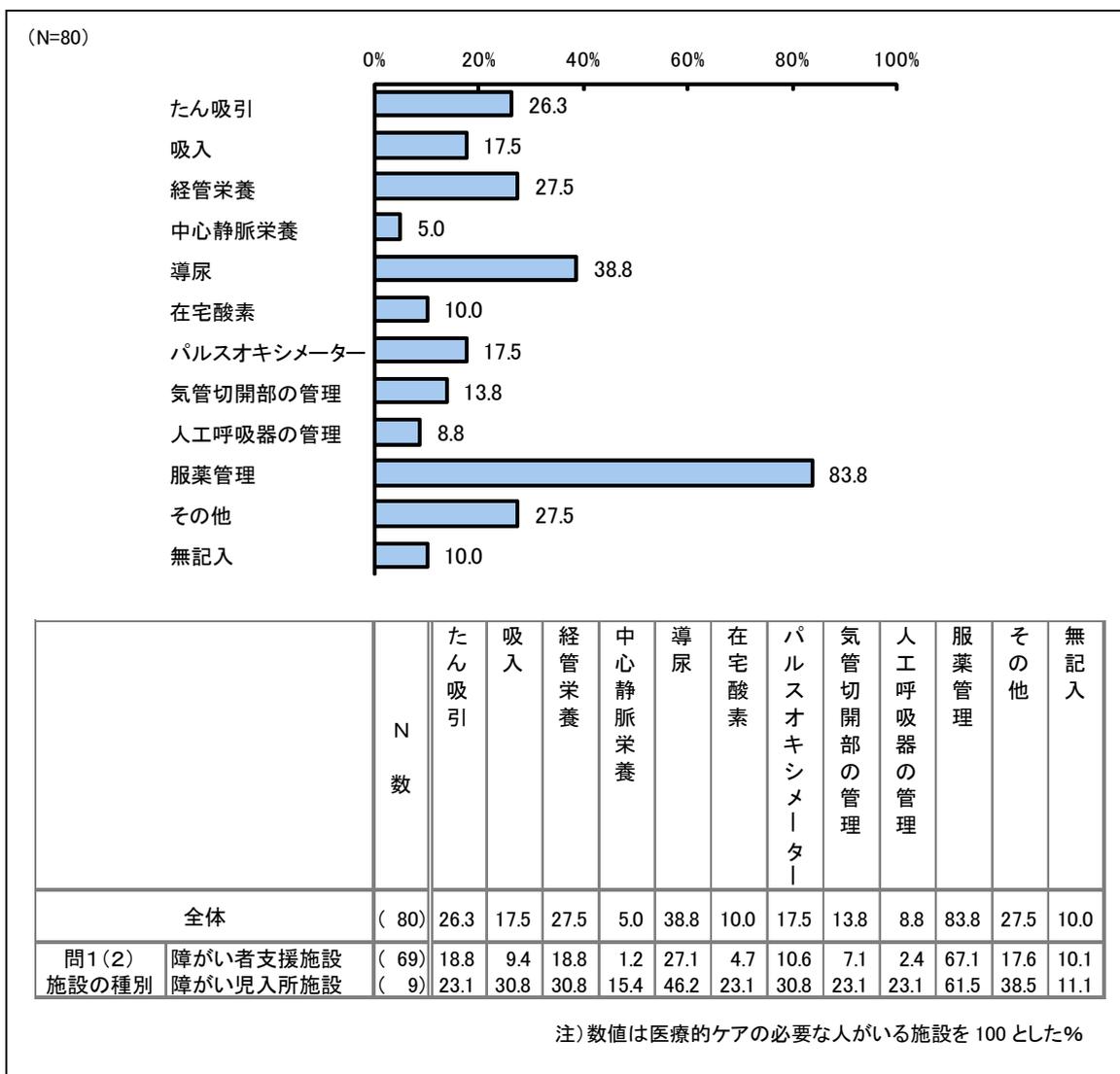
図表 問5(1) 医療的ケアの必要な方の人数(SA)



② 必要としている医療的ケア

「服薬管理」(83.8%)が最も多く、次いで、「導尿」(38.8%)、「経管栄養」(27.5%)、「たん吸引」(26.3%)が多い。

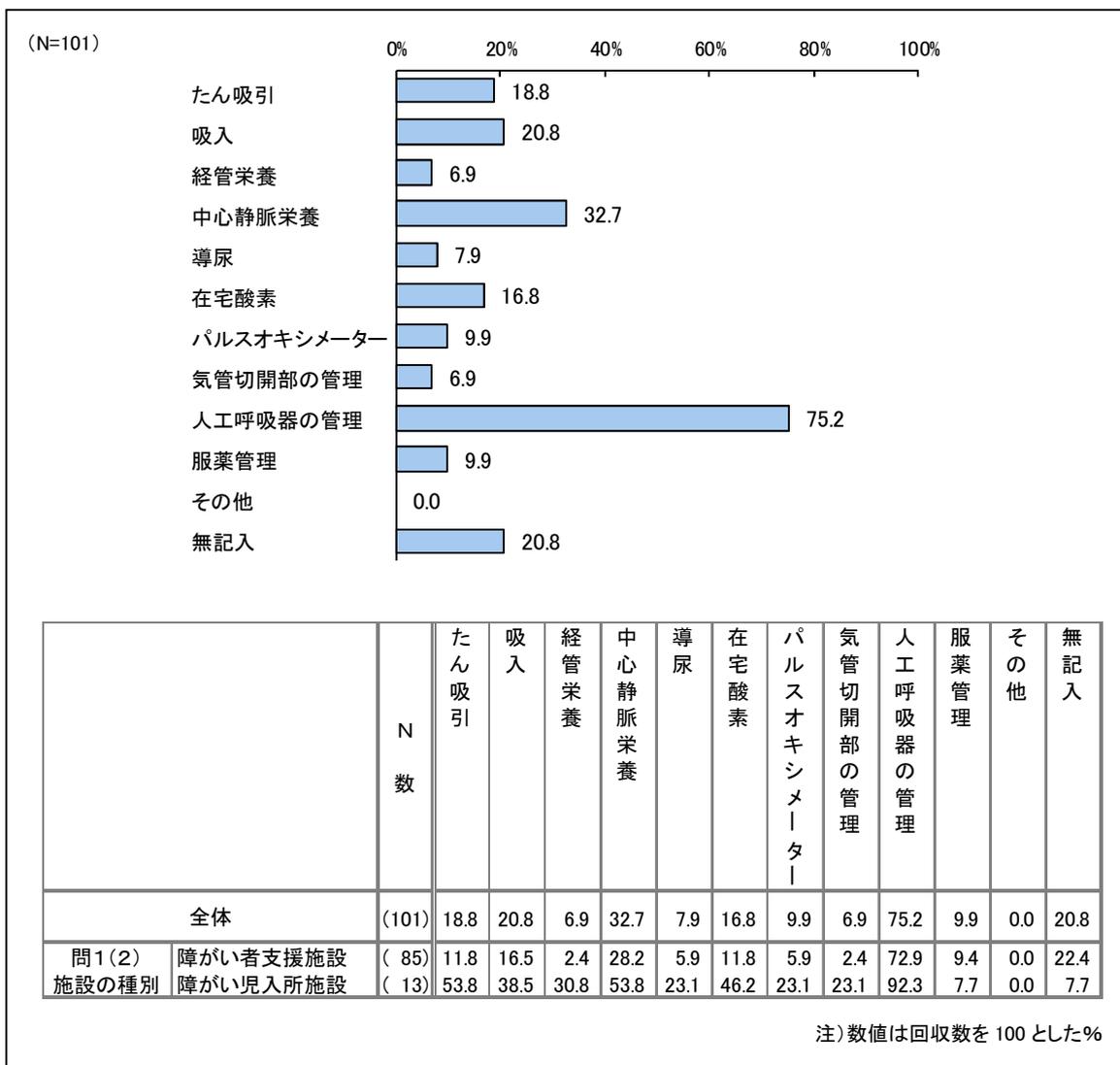
図表 問5(2) 必要としている医療的ケア(MA)



③ 対応可能な医療的ケア

「人工呼吸器の管理」(75.2%)が最も多く、次いで、「中心静脈栄養」(32.7%)、「吸入」(20.8%)、「たん吸引」(18.8%)、「在宅酸素」(16.8%)が多い。

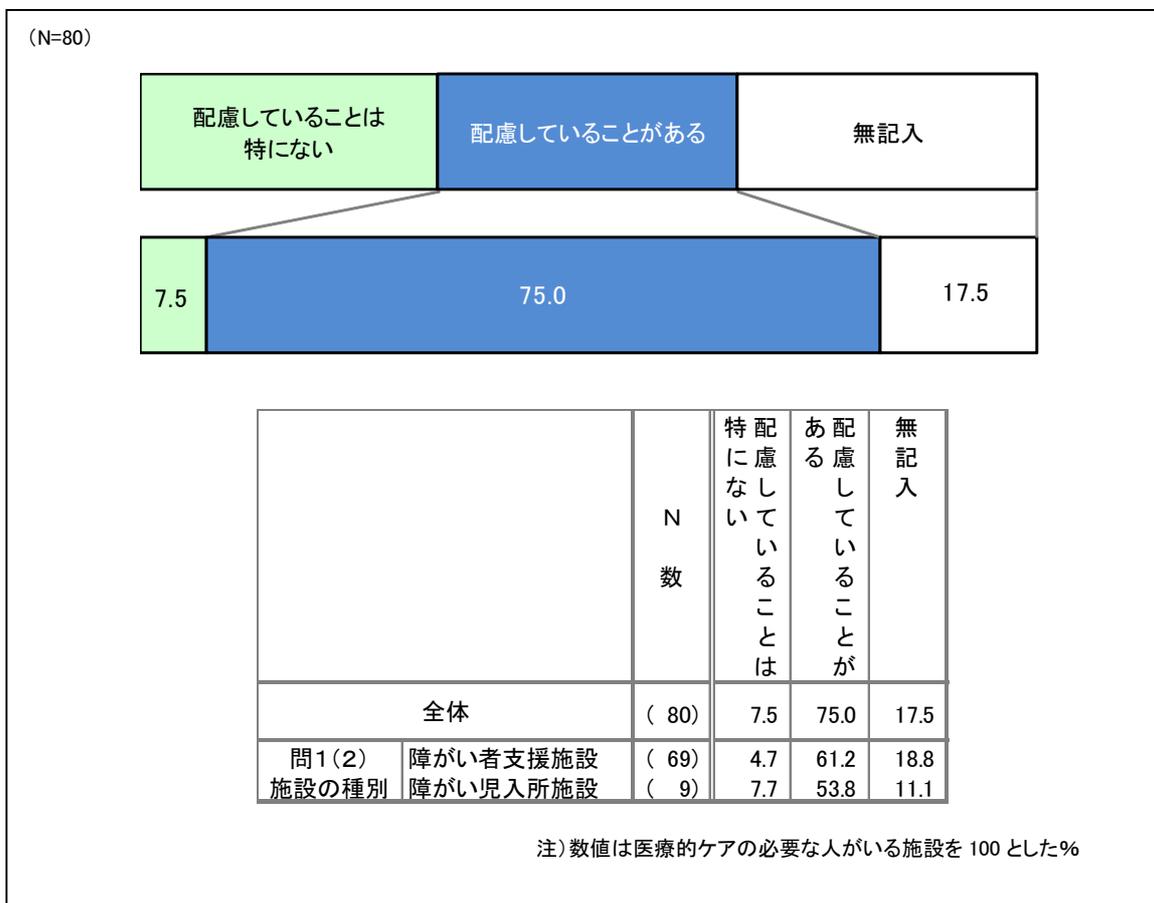
図表 問5(3) 対応可能な医療的ケア(MA)



④ 医療的ケアの必要な方に対する配慮

医療的ケアの必要な方に対しては、3/4 の施設が「配慮していることがある」と回答。

図表 問 5(4) 医療的ケアの必要な方に対する配慮(SA)



⑤ 医療的ケアの必要な方に対する配慮の具体例

医療的ケアの必要な方に対して配慮している具体例を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

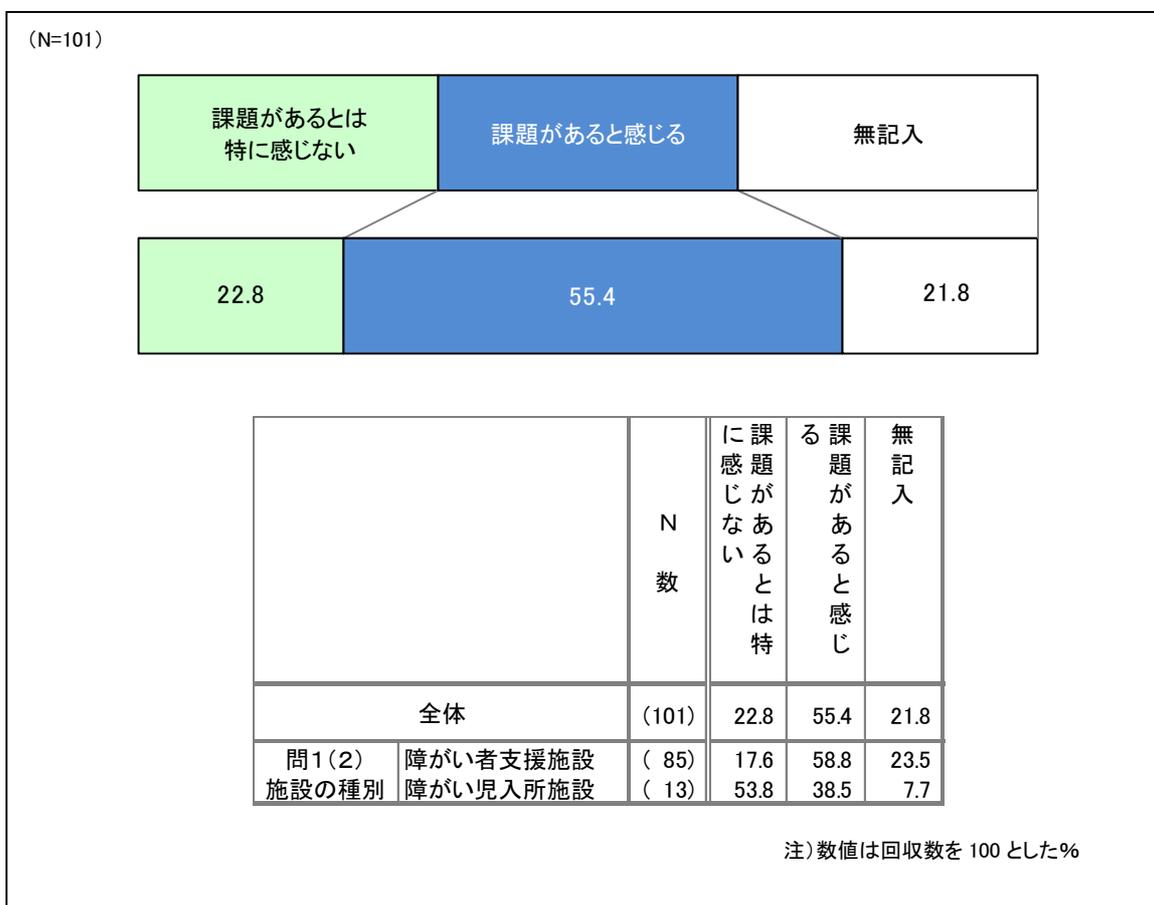
図表 問 5(4) 医療的ケアの必要な方に対する配慮の具体例

- ・ 健康管理、医療機関との連携
- ・ 誤薬防止のための複数チェック
- ・ 服薬ミスのない様に服薬マニュアルを作成し対応している
- ・ 導尿に関しては定期受診を行い専門医の診察をうける
- ・ 医療安全・感染予防対策の持続的な評価と実施
- ・ チーム医療システムの構築・職員教育の継続
- ・ 咳痰吸引の研修(特定、不特定)
- ・ 定時のバイタルチェック・定期受診

⑥ 医療的ケアの必要な方に対する支援の課題

施設内で医療的ケアの必要な方に対する支援について過半数が「課題があると感じる」と回答。

図表 問 5(5) 医療的ケアの必要な方に対する支援の課題(SA)



⑦ 医療的ケアの必要な方に対する支援の課題についての意見

医療的ケアの必要な方に対する支援の課題を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問 5(6) 医療的ケアの必要な方に対する支援の課題についての意見

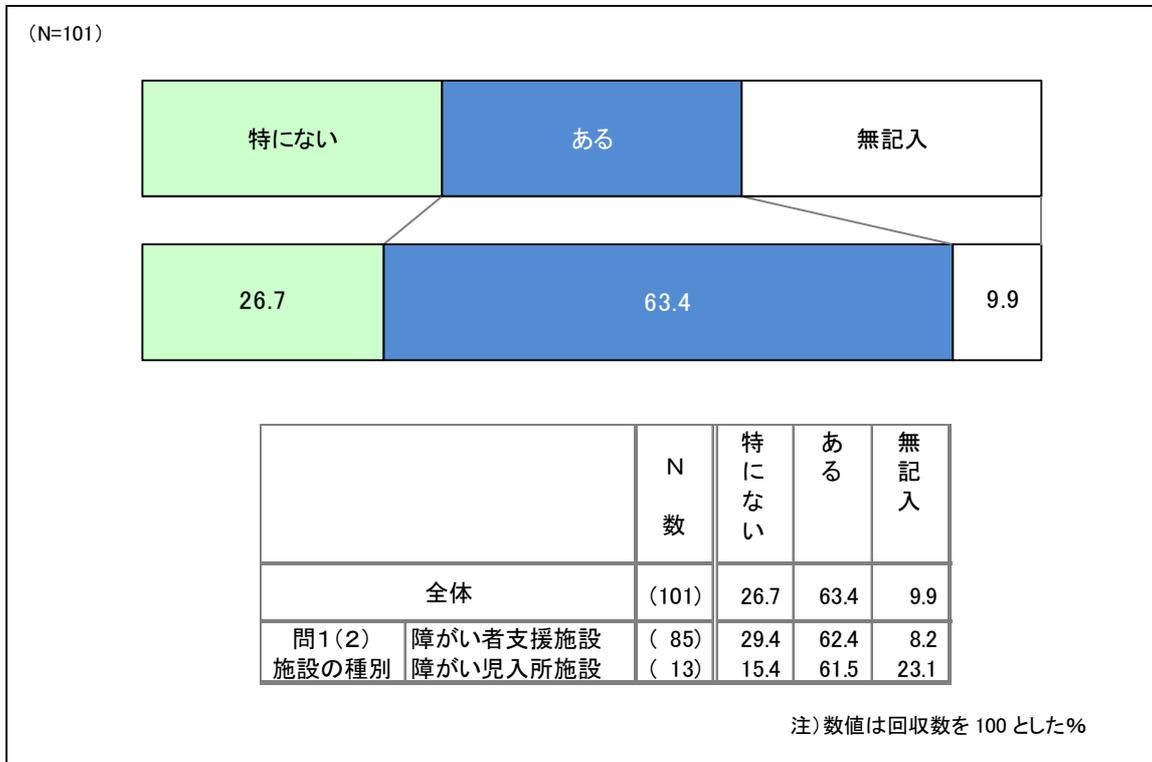
- ・ 導尿時に本人が拒否されるため、拘束をせざるを得ない
- ・ 人間的な配置が多くできればもう少し厚みのあるサポートができると思う
- ・ 看護師の不足(募集しても、求職者が来ない)
- ・ 入所者の高齢化に伴う急変等も増えている。
- ・ 施設で対応しきれない重度化した場合の他の医療機関との連携
- ・ 医療的ケアの必要性を理解できない家族対応と理解者に対する処置
- ・ 自立医療の受診医療機関が一ヶ所に限定されていること。

(6) 日中の支援について

① 日中支援で特に配慮していること

施設の 2/3 近く(63.4%)が特に配慮していることが「ある」と回答。

図表 問 6(1) 日中支援で特に配慮していること(SA)



② 日中支援で特に配慮していることの詳細

日中支援で特に配慮している具体例を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

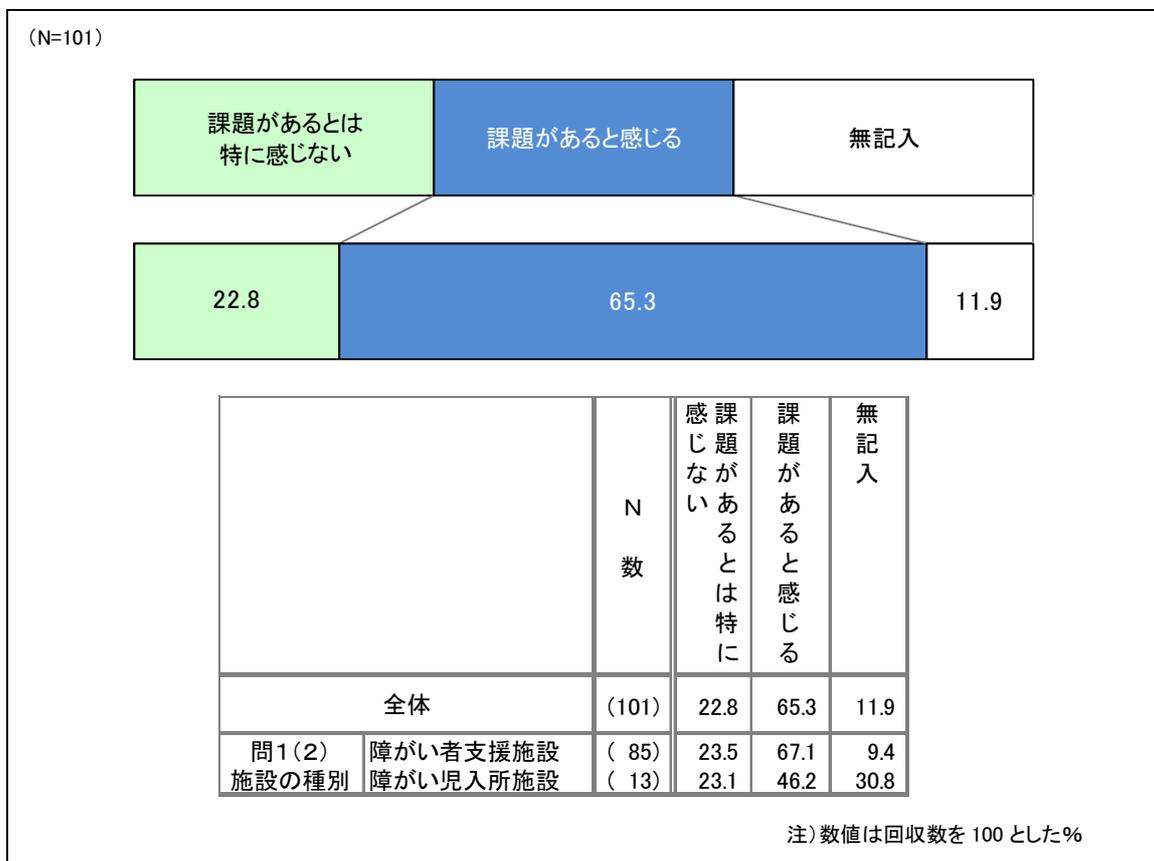
図表 問 6(1) 日中支援で特に配慮していることの詳細

- ・ 生活訓練に力を入れている。(清掃、洗たく、料理など)できる限り自力でさせている。
- ・ 大規模農園にての農作業を行っている。
- ・ 法人内の保育所、ケアハウス等へ利用者が作ったお菓子の提供、配達をかねたドライブ。
- ・ 個々の状態を把握してユニットを形成して支援を行っている。
- ・ 楽しく生活を送れるよう、レクリエーションや楽しみの機会を多く提供すること
- ・ 同法人内の事業所での清掃作業
- ・ 就労支援として職場実習、ハローワーク訪問などを行っている。
- ・ TEACCHプログラムを活用し、ニーズに応じた自閉症支援を行っている。
- ・ 地域移行を目指す人には宿泊訓練等を実施している。

③ 日中支援の課題

施設の 2/3 近く(65.3%)が日中支援には「課題があると感じる」と回答。

図表 問 6(2) 日中支援の課題(SA)



④ 日中支援の課題具体例

日中支援の課題を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問 6(2) 日中支援の課題具体例

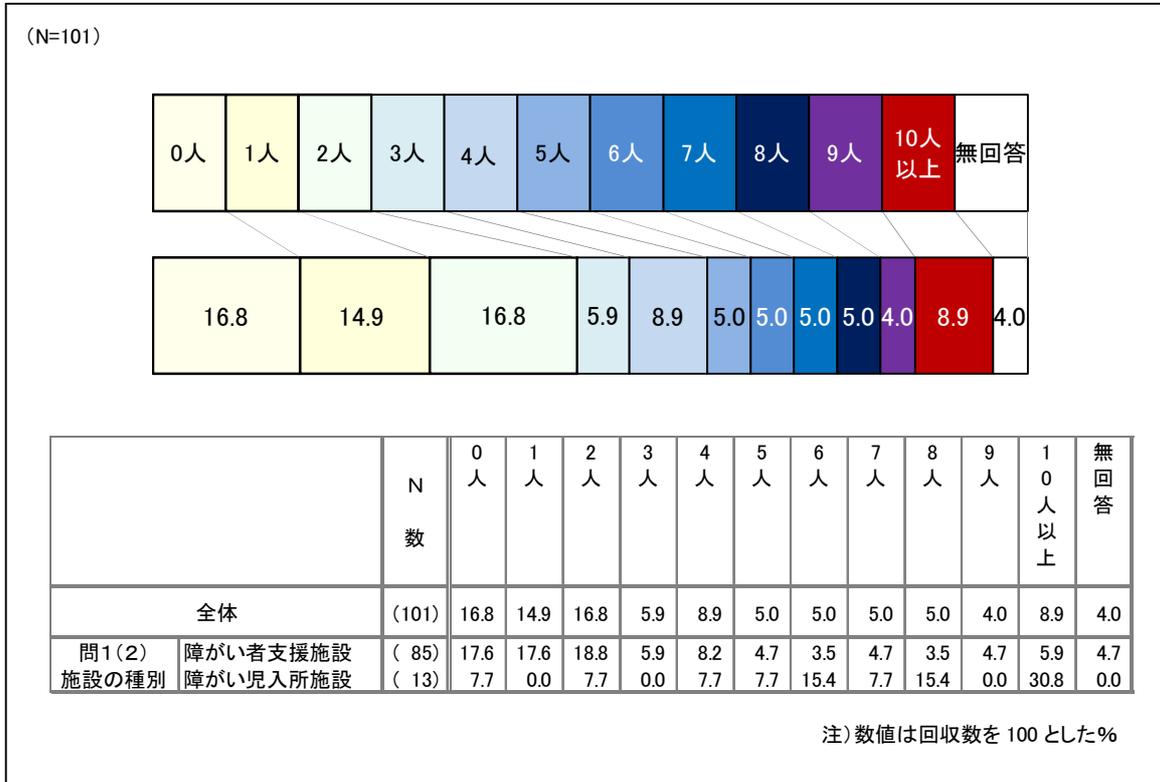
- ・ 職員数に限りがあるため、個別活動の回数が少なくなってしまう。
- ・ ご利用者の障がい特性から職員主導の活動になってしまう。
- ・ 活動内容がマンネリになってしまう。
- ・ 看護師不足により医療的ケアの必要な方への支援が出来ていない。
- ・ 個別支援の内容を担当以外の職員に周知できていない。
- ・ 職員研修(レクレーション活動)が不足していると、感じている。
- ・ 行動障がいに対する知識支援方法。人材育成。
- ・ 日中活動の専門スタッフがいなかったため連続して支援を組み立てていくことが難しい。
- ・ プログラム活動の場所が少ない。日中活動のスペースが狭い。

(7) 地域移行について

① 退所された人数

昨年度(平成 24 年度中)、全体の 8 割(79.2%)の施設で退所者が発生。その多く(31.7%)は「1~2 人」程度だが、中には「10 人以上」退所したという施設も 8.9%みられる。

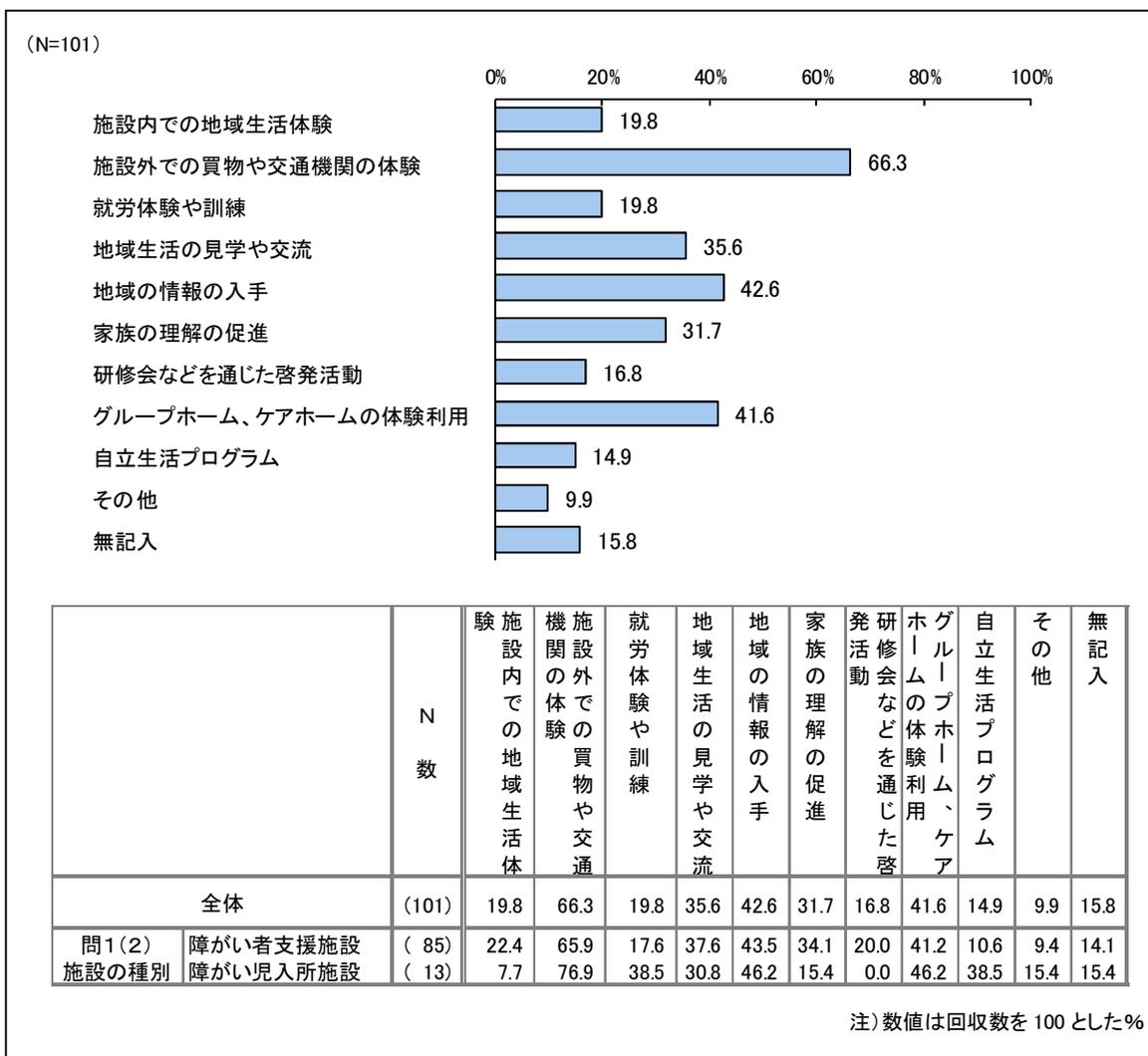
図表 問 7(1) 退所された人数



② 地域移行に向けた取り組み

「施設外での買物や交通機関の体験」(66.3%)が最も多く、「地域の情報の入手」(42.6%)、「グループホーム、ケアホームの体験利用」(41.6%)が4割台で続く。

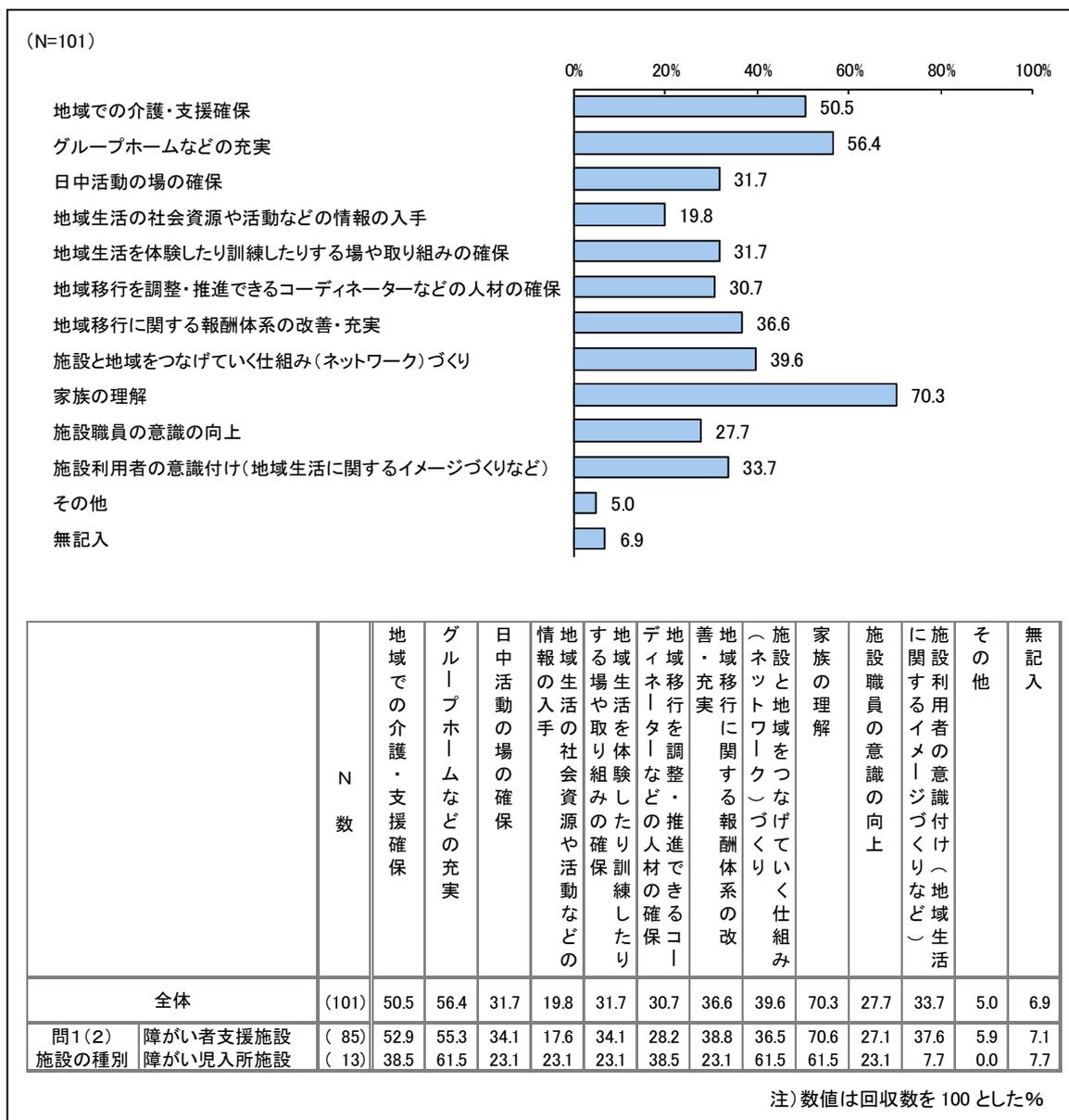
図表 問7(3) 地域移行に向けた取り組み(MA)



③ 地域移行を進めるうえでの課題

「家族の理解」(70.3%)が最も多く、「グループホームなどの充実」(56.4%)、「地域での介護・支援確保」(50.5%)が5割台で続く。

図表 問7(4) 地域移行を進めるうえでの課題



④ 地域移行を進めるうえでの課題についての意見

地域移行を進めるうえでの課題を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問7(4) 地域移行を進めるうえでの課題についての意見

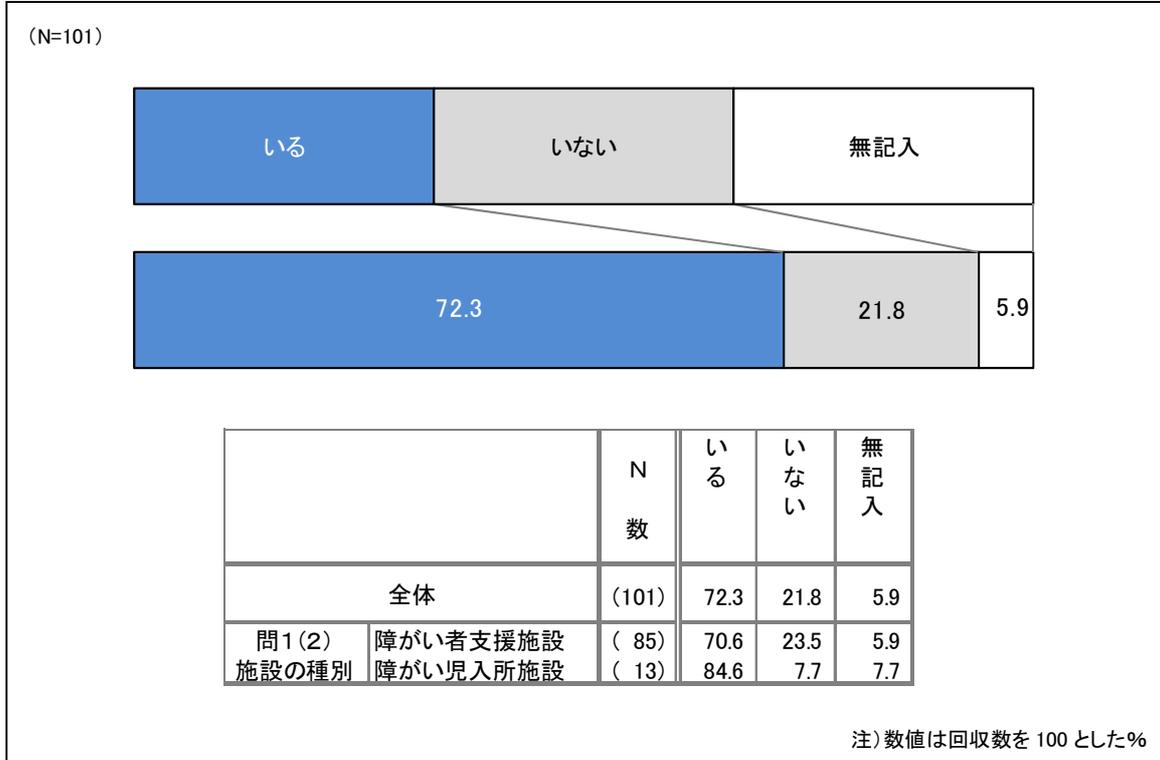
- ・ 利用者の殆どが入所歴が長く、地域生活のイメージができない事。又、長年の生活スタイルを変える事への抵抗感が強い
- ・ 重度の障がいがある方が地域移行をするにはあらゆる面において工夫改善、配慮を要するので事業所だけでは限界を感じています
- ・ 利用者が地域生活を希望されていても家族の反対があると、体験や見学さえも出来ません。
- ・ 医的ケアが必要な方の地域移行を推進する上で、同一敷地内にグループホームを作れない条令は大きな障がいとなっている。
- ・ 地域の中でも、地元住民の方の理解・協力体制の課題。
- ・ 入所歴の長い方の家族の地域移行への理解が乏しく、金銭面での負担にばかり関心が向いており、本人の将来どうあるべきかの姿に関心が向かない
- ・ 地域移行を進めると赤字になって行く。経営的な問題があり、現状はきびしい。
- ・ 住宅の確保、日中活動場所の確保 地域住民の理解を要する。

(8) 短期入所の利用状況について

① 短期入所を繰り返し継続利用している方の有無

施設の7割強(72.3%)が短期入所を繰り返し継続的に利用している方がいると回答。

図表 問8(1) 短期入所を繰り返し継続利用している方の有無



② 短期入所を繰り返し継続利用している方の課題についての意見

短期入所を繰り返し継続的に利用している方についての課題を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問 8(1) 短期入所を繰り返し継続利用している方の課題についての意見

- ・ 個室対応のご利用者が多いが個室数が少ないためお断りすることがある。
- ・ 施設入所ご利用者との良好な関係が保ちにくい
- ・ 大阪市内の短期入所のベット数が需要に見合っていない。
- ・ 本来であれば、入所が妥当だと思われるが、空床がなく対応できない。
- ・ 利用希望が土日・祝日に集中していて平日の利用が少ない。
- ・ 日中に短期入所利用者に対応できる職員配置が出来ない。
- ・ 医療的ケアを希望される重度の方に、十分な対応が出来るよう、看護職員の別途配置加算などの対応が必要であると考える。
- ・ 他事業所を利用している場合等、情報の共有などが難しく、支援内容が統一されているのか確認しにくいところがある。

(9) 障がい者施設全般について

① 障がい者施策全般に対する意見

障がい者施策全般に対する意見を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問9(1) 障がい者施策全般に対する意見

- ・ 重度行動障がい者に対する人件費(補助金)の確保。
- ・ 他府県の入所利用者に対しての医療費や交通費助成等の整備をお願いします。
- ・ 特性に合わせ、年齢に関係なく施設利用できたり、研修事業は施設負担の必要無しで受講できるよう、予算立てしてほしい。
- ・ 昨今都市部の福祉型障がい児入所施設では児童養護施設、情緒障がい児短期治療施設等と重なり合う、入所児童の状況像があるため、児童福祉施設として新たな施設種別の再編が検討されるべきと考えている。
- ・ 施設現場で働いてくれる支援員がなかなか確保できない。資の高い職員が集まらない。他の業種並みの賃金を払えない。
- ・ 障がい者権利条約の批准が行われますが、この条約に規定された内容と障がい福祉の現状は大きな開きがある。

② 災害時に備えた対策や入所者に対する防災訓練についての具体的取組み

災害時に備えた対策や入所者に対する防災訓練についての具体的取組みを聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問9(2) 災害時に備えた対策や入所者に対する防災訓練についての具体的取組み

- ・ 月1回の避難訓練実施
- ・ 非常食(約3月分)の準備
- ・ 非常用予備発電機設置
- ・ 防災時のマニュアル作成
- ・ 防災対策委員会を設置
- ・ 区の避難所に登録
- ・ 情報がいち早く職員に伝える工夫(トランシーバーの設置やラジオ、携帯からの情報取得の機材の準備と使い方。備品の確保と作動確認の訓練の実施。利用者の個別の支援内容や家族の連絡先などをまとめて持ち出し袋に装備。更新を行うこと。)
- ・ 支援者の確保(休みの職員の呼び出し方法などを決める)。
- ・ 避難先の生活を想定したキャンプを実施し、バリアフリーでない生活場面での生活、介助体制、備蓄食糧、日用品等を検討した。